

平成24年9月期 決算短信 (REIT)

平成24年11月14日

不動産投資信託証券発行者名 森トラスト総合リート投資法人 上場取引所 東証
 コード番号 8961 URL <http://www.mt-reit.jp/>
 代表者 執行役員 堀野 郷

資産運用会社名 森トラスト・アセットマネジメント株式会社
 代表者 代表取締役社長 堀野 郷
 問合せ先責任者 取締役企画財務部長 山本 道男 TEL (03)3568-8311

有価証券報告書提出予定日 平成24年12月21日 分配金支払開始予定日 平成24年12月13日

決算補足説明資料作成の有無 有
 決算説明会開催の有無 有 (機関投資家及びアナリスト向け)

(金額は百万円未満切り捨て)

1. 平成24年9月期の運用、資産の状況(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 運用状況

(括弧内の%表示は対前期増減比)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年9月期	8,786	(△2.5)	5,563	(△3.4)	4,753	(△2.4)	4,752	(△1.3)
24年3月期	9,014	(2.4)	5,756	(4.7)	4,868	(6.9)	4,817	(5.8)

	1口当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	営業収益 経常利益率
	円	%	%	%
24年9月期	19,638	3.4	1.6	54.1
24年3月期	19,906	3.4	1.7	54.0

(2) 分配状況

	1口当たり分配金 (利益超過分配金 は含まない)	分配金総額	1口当たり利 益超過分配金	利益超過 分配金総額	配当性向	純資産 配当率
	円	百万円	円	百万円	%	%
24年9月期	19,639	4,752	0	0	100.0	3.4
24年3月期	19,504	4,719	0	0	97.9	3.3

(注1) 平成24年3月期の1口当たり分配金と1口当たり当期純利益の差異は圧縮積立金の繰入(97,352千円)の実施によるものです。

(注2) 配当性向については小数第1位未満を切り捨てて表示しています。

(3) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1口当たり純資産
	百万円	百万円	%	円
24年9月期	296,515	141,459	47.7	584,544
24年3月期	289,933	141,427	48.8	584,409

(4) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
24年9月期	6,249	△6,681	1,105	13,538
24年3月期	8,430	△405	△3,779	12,864

2. 平成25年3月期の運用状況の予想(平成24年10月1日～平成25年3月31日)

(括弧内の%表示は対前期増減比)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1口当たり分配金 (利益超過分配金 は含まない)	1口当たり利 益超過分配金
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %	円	円
25年3月期	8,432 (△4.0)	4,670 (△16.0)	3,859 (△18.8)	4,598 (△3.2)	19,000	0

(参考) 1口当たり予想当期純利益(平成25年3月期) 19,000円

3. その他

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	無
② ①以外の会計方針の変更	無
③ 会計上の見積りの変更	無
④ 修正再表示	無

(2) 発行済投資口数

① 期末発行済投資口数(自己投資口を含む) 平成24年9月期 242,000口 平成24年3月期 242,000口

② 期末自己投資口数 平成24年9月期 0口 平成24年3月期 0口

(注) 1口当たり当期純利益の算定の基礎となる投資口数については、28ページ「1口当たり情報に関する注記」をご覧ください。

<p>※ 監査手続きの実施状況に関する表示</p> <p>この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続きは終了していません。</p> <p>※ 運用状況の予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項</p> <p>本資料に記載されている運用状況の見通し等の将来に関する記述は、本投資法人が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の運用状況等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。また、本予想は分配金の額を保証するものではありません。運用状況の予想の前提条件については7ページ「第22期(平成24年10月1日～平成25年3月31日)運用状況の予想の前提条件」をご参照ください。</p>
--

1. 投資法人の関係法人

最近の有価証券報告書(平成24年6月25日提出)における「投資法人の仕組み」から重要な変更がないため開示を省略します。

2. 運用方針及び運用状況

(1) 運用方針

最近の有価証券報告書(平成24年6月25日提出)における「投資方針」、「投資対象」、「分配方針」から重要な変更がないため開示を省略します。

(2) 運用状況

(a) 当期の概況

① 投資法人の主な推移

本投資法人は、投資信託及び投資法人に関する法律に基づき、森トラスト・アセットマネジメント株式会社(平成15年11月1日に日本総合ファンド株式会社より商号変更)を設立企画人として、平成13年10月2日に設立されました。

平成14年3月28日に事業用借地契約にかかる土地「フレスポ稲毛」(信託受益権)の取得を皮切りに、運用を開始しました。

以降、着実に資産規模を拡大し、平成16年2月13日に東京証券取引所不動産投資信託証券市場に上場(銘柄コード8961)しました。

当期末現在の本投資法人の資産総額は296,515百万円となり、合計14物件の保有不動産を運用しています。

② 投資環境と運用実績

当期の日本経済は、前半は震災以降の復旧・復興による景気の下支えにより緩やかな回復基調をたどっていたところ、長期化する欧州債務問題や中国経済成長の減速等、世界経済の低迷から外需が伸び悩み、後半はやや横ばいの状況で推移しました。

不動産流通市場は、前期から引き続き市場参加者の投資意欲は高く、資金調達環境も良好である中、積極的な投資が行われ、利回りの高い全国主要都市の中小規模物件売買が目立った一方、大規模優良物件の取引は依然限定的なものとなりました。

不動産賃貸市場のうち、オフィスビルについては、全国的に需要が底堅く推移し、東京都心部ではハイグレードビルを中心とした新築ビルの大量供給があったために空室率が悪化したものの、全国主要都市では目立った新規供給はなかったために空室率は改善傾向となりました。また、賃料水準については一部の地域に弱みがあるものの、全国的に前期からほぼ横ばいで推移しており、底入れの兆しが見られました。

商業施設のうち大型小売店については、個人消費の緩やかな回復傾向が見られたものの、同業態・異業態間競争の激化や電気料金値上げ等によるコスト増加等、厳しい状況が続きました。

東京の高級賃貸住宅については、震災後外資系企業の撤退により外国人需要は引き続き低迷しており、賃料水準は低水準で推移しました。

ホテルについては、震災や原発事故の影響による訪日外国人の減少や自粛等による宴会需要の一時的な落ち込みから立ち直りつつあるものの、電気料金値上げや原材料価格上昇等によるコスト増加等、依然として厳しい経営環境となりました。

このような投資環境の中、当期の本投資法人は、平成24年7月12日に「天神プライム」(信託受益権、取得価格6,940百万円)を取得してポートフォリオの充実を図ったほか、既存物件においても安定した収益の確保を図るべく運用を行いました。

この結果、当期末現在における本投資法人の保有不動産は14物件、帳簿価額の総額は282,801百万円となり、当期末時点での保有不動産の稼働率は99.5%となりました。

③ 資金調達の概要

当期においては、期限の到来した既存借入金の返済に充てるため、平成24年4月に12,500百万円、平成24年5月には500百万円、平成24年8月には19,000百万円の借入れを実施しました。

また、平成24年7月に、「天神プライム」の取得資金に充てるため、新たに6,000百万円を借入れにより調達しました。

これらの結果、有利子負債残高は139,825百万円、うち長期借入金(1年以内に返済予定のものは除きます。)は65,475百万円、投資法人債は10,000百万円となっています。なお、期末総資産有利子負債比率は47.2%(前期

末46.2%)となっています。

また、平成24年9月30日現在、本投資法人は株式会社日本格付研究所(JCR)からAA(格付の見通し：安定的)の長期優先債務格付を取得しています。

④ 業績及び分配の概要

このような運用の結果、当期の業績は、営業収益8,786百万円、営業利益5,563百万円となり、そこから借入金にかかる支払利息等を控除した経常利益は4,753百万円、当期純利益は4,752百万円となりました。

また、分配金については、税制の特例(租税特別措置法第67条の15)の適用により、利益分配金の最大額が損金算入されることを企図して、投資口1口当たり分配金が1円未満となる端数部分を除く当期未処分利益の全額を分配することとし、投資口1口当たりの分配金は19,639円となりました。

(b) 次期の見通し

① 概況

日本経済の今後については、景気の下支えを担っていた震災復旧・復興需要が徐々に薄れていくことに加え、新たな景気押し上げ要因が乏しく、また世界経済の低迷も続く予想されるため、しばらく横ばいからやや弱含みの状況が続くものと考えられます。

不動産流通市場は、市場参加者の積極的な投資姿勢は持続し、賃料水準の底打ち感も強まっていることから、不動産賃貸市場の本格的回復に先行して売買がより活発化するものと予想されます。

不動産賃貸市場のうち、オフィスビルについては、東京都心部の大量供給が一段落し、賃料の割安感からのグレードアップ移転や集約移転等、底堅い需要に支えられ、緩やかながら空室率は改善していくものと見られます。賃料水準については、底入れの兆しが見られつつありますが、しばらくは現在の横ばい状態が続くと予想され、回復にはなお時間を要するものと見込まれます。

商業施設のうち大型小売店については、個人消費は引き続き底堅く推移するものの、同業態・異業態間競争、エネルギー費用等コスト増加の問題等が懸念されることから、厳しい状況が続くものと予想されます。

東京の高級賃貸住宅については、世界経済の低迷による不透明感が強まる中で、外資系企業の日本再進出による需要の改善、賃料水準の回復の見込みは薄く、今しばらく低迷の状態が続くものと考えられます。

ホテルについては、震災後の復興とともに国内旅行者が増加しているものの、昨今の外交問題により訪日外国人観光客数に陰りが見え始めていることや、円高やコスト増加による影響等から、引き続き動向に注視する必要があります。

② 保有不動産の運用戦略

本投資法人は、保有不動産の賃貸借契約形態において、市場賃料水準の下落が直ちに本投資法人の保有不動産の収益に大きな影響を与えることがないように、引き続き中長期で固定賃料とする定期建物賃貸借契約の比重を一定の割合で確保していきます。

但し、新規賃貸借契約の締結の際には、契約期間、賃料の中長期固定化等に関して、対象不動産の立地や特徴を見極めたうえで、適宜検討を行い、収益の最大化を目指します。

また、保有不動産の運営管理については、市場競争力を維持向上させ、安定的な運用が可能となるよう、以下の方針にて行います。

1. 入居しているテナント満足度向上に注力し、各保有不動産の特徴を見極めたうえで、予防保全・安全管理の徹底及びテナントとのカスタマーリレーションの充実等に留意し、本投資法人の保有不動産の高稼働率の維持に努めます。
2. 新規賃貸借契約の締結に際しては、将来の賃貸収益を確実なものにするため、中長期の定期建物賃貸借契約、その他賃料の固定化または契約期間の長期化に配慮した賃貸借契約を締結するよう努めます。また、安定的な内部成長が期待できる保有不動産については、インカムゲインの増加を取り込めるような契約も取り入れます。
3. 保有不動産の経年劣化や築年数を考慮のうえ、老朽化した設備等に関しては更新を行い、さらに、競合物件に引けをとらない市場競争力を高めるため、積極的な投資を行い、安定的な稼働率の維持に努めます。

③ 新規投資不動産の投資戦略

本投資法人の資産規模の拡大及び新規投資不動産取得のため、物件情報ルートのさらなる開拓・深耕を図り、質の高い物件情報の収集に努めることに注力しつつ、以下の投資戦略のもとで投資を行うことを基本とします。

1. 本投資法人は、投資不動産の用途にかかわらず、「東京都心部」を中心に資産総額の60～80%を目途に投資を行います。また、「その他」の地域に立地する投資不動産であっても、例えば、交通結節点等の利便性が良いオフィス集積度の高い地域に立地しているオフィスビルや、商圏内で高い競争力を有する優良商業施設等については、投資を行います。
2. 本投資法人は、「オフィスビル」を用途とする投資不動産に対し、資産総額の70～90%を目途に投資を行うとともに、「オフィスビル」以外の投資不動産として、「商業施設」（資産総額の10～30%）及び「その他」（資産総額の0～10%）に対しても併せて投資を行うものとします。但し、「その他」の用途としては、当の間、住宅及びホテルに限るものとします。
3. 本投資法人は、中長期の賃貸借契約を賃借人と締結することを基本とします。また、可能な限り、定期建物賃貸借による契約、その他賃料の固定化または契約期間の長期化に配慮した賃貸借契約を締結するように努めます。なお、投資不動産の賃貸にかかる契約形態については、投資不動産を直接テナントに賃貸する形態のほか、テナントとの間に賃借人（マスターレシー）を介在させ、マスターレシーに対し賃貸する形態（マスターリース契約）がありますが、マスターリース契約については、対象不動産の規模、用途、入居テナント等の特性を吟味したうえで一定の効果が認められる場合には積極的に検討するものとします。

④ 財務戦略等

資金調達コストの低減及び金融環境の変化による影響の軽減に配慮し、短期借入金と長期借入金をバランス良く調達するよう努めます。また、投資法人債の発行も検討します。

なお、資金調達先の選定に際しては、複数の適格機関投資家と交渉のうえ、諸条件を比較し決定します。

⑤ 決算後に生じた重要な事実

本投資法人が保有する「丸紅大阪本社ビル」（注）において、テナントとの定期建物賃貸借契約が平成24年9月30日をもって期間満了となったことに伴い、テナントが所有していたビル運営上必要な建物附属設備等の固定資産を平成24年10月1日に無償で譲り受けました。

この結果、平成25年3月期に固定資産受贈益（約740百万円）を特別利益に計上する見込みです。

（注）「丸紅大阪本社ビル」は、平成24年10月1日付で「大阪丸紅ビル」に名称変更しています。以下同じです。

（参考情報）

本投資法人は、当期決算日（平成24年9月30日）以降に以下の物件を取得しました。

コーナン相模原西橋本店

(i) 取得の概要

取得資産：不動産

土地 所有権

建物 所有権

取得価格：7,460百万円（但し、取得諸経費、固定資産税、都市計画税及び消費税等を除きます。）

取得日：平成24年10月18日

売主：ケーエージー・トゥエルブ・インベストメント特定目的会社

(ii) 取得資産の概要

所在地（住居表示）：相模原市緑区西橋本五丁目4番3号

用途：商業施設

地積：19,878.57㎡

延床面積：40,283.77㎡

構造：鉄骨造陸屋根／5階建

建築時期：平成17年8月

(iii) 賃貸状況の概要

テナント総数：1

総賃貸可能面積：40,283.77㎡

総賃貸面積 : 40,283.77㎡
稼働率 : 100%

⑥ 運用状況の見通し

次期(第22期 平成24年10月1日～平成25年3月31日)の運用状況については、以下のとおり見込んでいます。
運用状況の予想の前提条件については、以下の「第22期(平成24年10月1日～平成25年3月31日)運用状況の予想の前提条件」をご覧ください。

なお、第23期(平成25年4月1日～平成25年9月30日)の運用状況については、現時点で、合理的な算出を行うことが困難なため、公表を控えます。開示が可能となった時点で速やかに公表します。

	第22期
営業収益	8,432百万円
営業利益	4,670百万円
経常利益	3,859百万円
当期純利益	4,598百万円
1口当たり分配金	19,000円

(注)上記予想数値は一定の前提条件に基づいて算出した現時点でのものであり、状況の変化により、実際の営業収益、営業利益、経常利益、当期純利益、1口当たり分配金は変動する可能性があり、これらの額を保証するものではありません。

[第22期(平成24年10月1日～平成25年3月31日)運用状況の予想の前提条件]

項目	前提条件
運用資産	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年9月30日現在保有している14物件に、平成24年10月18日に取得した「コーナン相模原西橋本店」を加えた合計15物件を前提としています。 実際には、その他の物件の取得、譲渡により変動する可能性があります。
発行済投資口数	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年9月30日現在の242,000口を前提としています。但し、期中に投資口の発行等を行うことにより変動する可能性があります。
有利子負債及びその借換え	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年9月30日現在の有利子負債残高139,825百万円に加え、平成24年10月18日に「コーナン相模原西橋本店」を取得したことに伴い7,500百万円の借入れを行った結果、平成24年11月14日現在の有利子負債残高は147,325百万円となっています。 第22期中に期限を迎える借入金32,625百万円の返済については、借換え及び一部自己資金による充当を前提としています。
営業収益	<ul style="list-style-type: none"> 賃貸事業収入については、テナント動向等を勘案しています。 「三田MTビル」は平成24年11月30日付で主要テナントが退去する見込みです。平成24年12月以降については、空室を前提としています。 テナントによる賃料の滞納または不払いがないことを前提としています。
営業費用	<ul style="list-style-type: none"> 保有する不動産等にかかる固定資産税、都市計画税及び償却資産税については、賦課決定された税額のうち、当該計算期間に対応する額を賃貸事業費用に計上しています。但し、不動産等の取得に伴い精算金として譲渡人に支払った取得年度の固定資産税、都市計画税等相当額については、当該不動産等の取得原価に算入されるため当該計算期間の費用として計上されません。 修繕費については、必要と想定される額を費用として計上しています。しかし、予想し難い要因による建物の毀損等により緊急に発生する可能性があること、一般的に年度による金額の差異が大きくなること及び定期的に発生する費用でないこと等から、修繕費が予想金額と大きく異なる結果となる可能性があります。 公租公課については、856百万円を想定しています。 管理業務費については、360百万円を想定しています。 減価償却費については、1,423百万円を想定しています。 賃貸事業費用以外の営業費用(資産運用報酬、資産保管手数料、一般事務委託手数料等)については、417百万円を想定しています。
営業外費用	<ul style="list-style-type: none"> 営業外費用(借入金利息、投資法人債利息等)については、812百万円を想定しています。 なお、融資関連費用は発生しないことを前提としています。
特別利益	<ul style="list-style-type: none"> 固定資産受贈益740百万円を想定しています。
分配金の額	<ul style="list-style-type: none"> 分配金(1口当たり分配金)は、本投資法人の規約に定める金銭の分配方針を前提として算出しています。 運用資産の異動及びテナントの異動等に伴う賃貸収入の変動、予期せぬ修繕の発生、発行済投資口数の変動または資金調達等を含む種々の要因により、1口当たり分配金は変動する可能性があります。
1口当たり利益超過分配金	<ul style="list-style-type: none"> 利益超過の分配(1口当たり利益超過分配金)については、現時点で行う予定はありません。
その他	<ul style="list-style-type: none"> その他の法令、税制、会計基準、上場規則、投信協会規則等において、上記の予想数値に影響を与える改正が行われないことを前提としています。

3. 財務諸表

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前期 (平成24年3月31日)	当期 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,677,889	12,255,401
信託現金及び信託預金	1,186,703	1,282,741
営業未収入金	72,745	63,339
前払費用	39,071	51,235
繰延税金資産	19	15
流動資産合計	12,976,430	13,652,735
固定資産		
有形固定資産		
建物	50,261,941	50,398,966
減価償却累計額	△10,062,211	△11,025,369
建物（純額）	40,199,729	39,373,596
構築物	617,207	617,207
減価償却累計額	△256,405	△303,239
構築物（純額）	360,801	313,967
機械及び装置	128,877	128,877
減価償却累計額	△88,954	△93,438
機械及び装置（純額）	39,922	35,438
工具、器具及び備品	103,655	105,803
減価償却累計額	△40,201	△47,359
工具、器具及び備品（純額）	63,453	58,443
土地	176,130,903	176,130,903
建設仮勘定	5,572	4,903
信託建物	※1 14,289,163	※1 15,767,710
減価償却累計額	△2,988,144	△3,270,859
信託建物（純額）	11,301,019	12,496,850
信託構築物	41,857	49,359
減価償却累計額	△34,452	△35,039
信託構築物（純額）	7,405	14,319
信託機械及び装置	2,277	2,277
減価償却累計額	△2,163	△2,163
信託機械及び装置（純額）	113	113
信託工具、器具及び備品	15,971	15,971
減価償却累計額	△4,591	△5,523
信託工具、器具及び備品（純額）	11,379	10,447
信託土地	48,762,053	54,367,515
有形固定資産合計	276,882,354	282,806,499
無形固定資産		
その他	240	240
無形固定資産合計	240	240
投資その他の資産		
差入保証金	10,000	10,000
長期前払費用	23,828	12,868
その他	3,152	3,602
投資その他の資産合計	36,980	26,470
固定資産合計	276,919,574	282,833,210

(単位：千円)

	前期 (平成24年3月31日)	当期 (平成24年9月30日)
繰延資産		
投資法人債発行費	37,746	29,891
繰延資産合計	37,746	29,891
資産合計	289,933,751	296,515,837
負債の部		
流動負債		
営業未払金	159,589	423,242
短期借入金	22,500,000	27,000,000
1年内返済予定の長期借入金	36,300,000	37,350,000
未払金	117,308	193,974
未払費用	594,471	564,392
未払配当金	15,849	16,231
未払法人税等	882	705
未払消費税等	182,357	114,704
前受金	1,394,518	1,397,836
預り金	1,720	6,716
流動負債合計	61,266,697	67,067,805
固定負債		
投資法人債	10,000,000	10,000,000
長期借入金	65,200,000	65,475,000
預り敷金及び保証金	11,741,782	12,215,120
信託預り敷金及び保証金	247,752	247,752
繰延税金負債	50,509	50,509
固定負債合計	87,240,044	87,988,382
負債合計	148,506,742	155,056,188
純資産の部		
投資主資本		
出資総額	136,609,600	136,609,600
剰余金		
任意積立金		
圧縮積立金	—	97,352
任意積立金合計	—	97,352
当期末処分利益又は当期末処理損失(△)	4,817,408	4,752,696
剰余金合計	4,817,408	4,850,049
投資主資本合計	141,427,008	141,459,649
純資産合計	※3 141,427,008	※3 141,459,649
負債純資産合計	289,933,751	296,515,837

（2）損益計算書

（単位：千円）

	前期 （自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日）	当期 （自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日）
営業収益		
貸貸事業収入	※1 8,542,431	※1 8,570,303
その他貸貸事業収入	※1 224,937	※1 216,028
不動産等売却益	※2 246,876	—
営業収益合計	9,014,244	8,786,331
営業費用		
貸貸事業費用	※1 2,847,697	※1 2,835,289
資産運用報酬	277,371	275,759
資産保管手数料	13,030	13,177
一般事務委託手数料	42,860	43,997
役員報酬	9,180	9,180
その他営業費用	67,730	45,574
営業費用合計	3,257,869	3,222,979
営業利益	5,756,374	5,563,352
営業外収益		
受取利息	816	1,180
固定資産税等還付金	—	11,136
還付加算金	—	5,395
受取保険金	4,139	1,369
その他	1,173	1,673
営業外収益合計	6,129	20,756
営業外費用		
支払利息	864,921	782,855
投資法人債利息	24,081	39,854
投資法人債発行費償却	4,581	7,854
営業外費用合計	893,583	830,564
経常利益	4,868,920	4,753,544
特別利益		
補助金収入	38,340	—
特別利益合計	38,340	—
特別損失		
固定資産圧縮損	38,340	—
特別損失合計	38,340	—
税引前当期純利益	4,868,920	4,753,544
法人税、住民税及び事業税	1,034	932
法人税等調整額	50,510	3
法人税等合計	51,544	936
当期純利益	4,817,376	4,752,608
前期繰越利益	32	88
当期未処分利益又は当期未処理損失（△）	4,817,408	4,752,696

(3) 投資主資本等変動計算書

(単位：千円)

	前期 (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)	当期 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
投資主資本		
出資総額		
当期首残高	136,609,600	136,609,600
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	136,609,600	136,609,600
剰余金		
任意積立金		
圧縮積立金		
当期首残高	—	—
当期変動額		
圧縮積立金の積立	—	97,352
当期変動額合計	—	97,352
当期末残高	—	97,352
任意積立金合計		
当期首残高	—	—
当期変動額		
圧縮積立金の積立	—	97,352
当期変動額合計	—	97,352
当期末処分利益又は当期末処理損失 (△)		
当期首残高	4,554,230	4,817,408
当期変動額		
圧縮積立金の積立	—	△97,352
剰余金の配当	△4,554,198	△4,719,968
当期純利益	4,817,376	4,752,608
当期変動額合計	263,178	△64,712
当期末残高	4,817,408	4,752,696
剰余金合計		
当期首残高	4,554,230	4,817,408
当期変動額		
剰余金の配当	△4,554,198	△4,719,968
当期純利益	4,817,376	4,752,608
当期変動額合計	263,178	32,640
当期末残高	4,817,408	4,850,049
投資主資本合計		
当期首残高	141,163,830	141,427,008
当期変動額		
剰余金の配当	△4,554,198	△4,719,968
当期純利益	4,817,376	4,752,608
当期変動額合計	263,178	32,640
当期末残高	141,427,008	141,459,649

(単位：千円)

	前期 (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)	当期 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
純資産合計		
当期首残高	141,163,830	141,427,008
当期変動額		
剰余金の配当	△4,554,198	△4,719,968
当期純利益	4,817,376	4,752,608
当期変動額合計	263,178	32,640
当期末残高	141,427,008	141,459,649

（４）金銭の分配に係る計算書

（単位：円）

	前期 （自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日）	当期 （自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日）
I. 当期末処分利益	4,817,408,981	4,752,696,189
II. 分配金の額	4,719,968,000	4,752,638,000
（投資口1口当たり分配金の額）	(19,504)	(19,639)
III. 任意積立金		
圧縮積立金繰入額	97,352,905	—
IV. 次期繰越利益	88,076	58,189

分配金の額の算出方法

本投資法人の規約第29条第1項に従い、当期末処分利益から租税特別措置法第66条の2による圧縮積立金を控除した残額を超えない額で発行済投資口数242,000口の整数倍数の最大値となる4,719,968,000円を利益分配金として分配することとしました。

なお、本投資法人の規約第29条第2項に定める利益を超えた金銭の分配は行いません。

本投資法人の規約第29条第1項に従い、当期末処分利益を超えない額で発行済投資口数242,000口の整数倍数の最大値となる4,752,638,000円を利益分配金として分配することとしました。

なお、本投資法人の規約第29条第2項に定める利益を超えた金銭の分配は行いません。

(5) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前期 (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)	当期 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	4,868,920	4,753,544
減価償却費	1,292,097	1,305,868
投資法人債発行費償却	4,581	7,854
受取利息	△816	△1,180
支払利息	889,002	822,709
補助金収入	△38,340	—
固定資産圧縮損	38,340	—
営業未収入金の増減額 (△は増加)	27,658	9,405
営業未払金の増減額 (△は減少)	27,088	263,652
未払消費税等の増減額 (△は減少)	60,830	△67,653
前受金の増減額 (△は減少)	△17,137	3,318
信託有形固定資産の売却による減少額	2,193,263	—
その他	△22,993	10,993
小計	9,322,494	7,108,514
利息の受取額	816	1,180
利息の支払額	△891,305	△859,320
法人税等の支払額	△1,022	△1,109
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,430,983	6,249,264
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△71,853	△79,246
信託有形固定資産の取得による支出	△166,076	△7,074,770
預り敷金及び保証金の返還による支出	△8,080	△1,810
預り敷金及び保証金の受入による収入	33,989	475,148
信託預り敷金及び保証金の返還による支出	△232,248	—
補助金の受取額	38,340	—
その他	—	△450
投資活動によるキャッシュ・フロー	△405,929	△6,681,128
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	4,500,000
長期借入れによる収入	5,000,000	20,000,000
長期借入金の返済による支出	△9,200,000	△18,675,000
投資法人債の発行による収入	5,000,000	—
投資法人債発行費の支出	△23,427	—
分配金の支払額	△4,555,641	△4,719,585
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,779,068	1,105,414
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	4,245,985	673,550
現金及び現金同等物の期首残高	8,618,608	12,864,593
現金及び現金同等物の期末残高	12,864,593	13,538,143

(6) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(7) 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 固定資産の減価償却の方法	<p>有形固定資産(信託財産を含みます。) 定額法を採用しています。 なお、主たる有形固定資産の耐用年数は以下のとおりです。</p> <table border="0"> <tr> <td>建</td> <td>物</td> <td>3～41年</td> </tr> <tr> <td>構</td> <td>築</td> <td>物</td> <td>2～20年</td> </tr> <tr> <td>機</td> <td>械</td> <td>及</td> <td>び</td> <td>装</td> <td>置</td> <td>3～17年</td> </tr> <tr> <td>工</td> <td>具</td> <td>、</td> <td>器</td> <td>具</td> <td>及</td> <td>び</td> <td>備</td> <td>品</td> <td>3～15年</td> </tr> </table>	建	物	3～41年	構	築	物	2～20年	機	械	及	び	装	置	3～17年	工	具	、	器	具	及	び	備	品	3～15年
建	物	3～41年																							
構	築	物	2～20年																						
機	械	及	び	装	置	3～17年																			
工	具	、	器	具	及	び	備	品	3～15年																
2. 繰延資産の処理方法	<p>投資法人債発行費 償還までの期間にわたり定額法により償却しています。</p>																								
3. 収益及び費用の計上基準	<p>固定資産税等の処理方法 保有する不動産にかかる固定資産税、都市計画税及び償却資産税等については、賦課決定された税額のうち当該計算期間に対応する額を賃貸事業費用として費用処理する方法を採用しています。 なお、不動産または不動産を信託財産とする信託受益権の取得に伴い、精算金として譲渡人に支払った初年度の固定資産税等相当額については、費用に計上せず当該不動産の取得原価に算入しています。当期において不動産等の取得原価に算入した固定資産税等相当額は20,066千円です。</p>																								
4. キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)の範囲	<p>キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は以下のものを対象としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)手許現金及び信託現金 (2)随時引出し可能な預金及び信託預金 (3)容易に換金が可能であり、かつ価値の変動について僅少のリスクしか負わない、取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資 																								
5. 不動産等を信託財産とする信託受益権に関する会計処理方針	<p>保有する不動産等を信託財産とする信託受益権については、信託財産内の全ての資産及び負債勘定並びに信託財産に生じた全ての収益及び費用勘定について、貸借対照表及び損益計算書の該当勘定科目に計上しています。 なお、該当勘定科目に計上した信託財産のうち重要性がある以下の科目については、貸借対照表において区分掲記することとしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)信託現金及び信託預金 (2)信託建物、信託構築物、信託機械及び装置、信託工具、器具及び備品、信託土地 (3)信託預り敷金及び保証金 																								
6. 消費税等の処理方法	<p>消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しています。</p>																								

（8）財務諸表に関する注記事項
〔貸借対照表に関する注記〕

項目	期別	前期 (平成24年3月31日)	当期 (平成24年9月30日)
1. 国庫補助金等により取得した有形固定資産の圧縮記帳額		信託建物 38,340千円	信託建物 38,340千円
2. 当座借越契約		機動的な資金調達手段を確保することを主たる目的として、取引銀行と特殊当座借越契約を締結しています。 契約極度額 20,000,000千円 当期末借入残高 — 差引額 20,000,000千円	機動的な資金調達手段を確保することを主たる目的として、取引銀行と特殊当座借越契約を締結しています。 契約極度額 20,000,000千円 当期末借入残高 — 差引額 20,000,000千円
3. 投資信託及び投資法人に関する法律第67条第4項に定める最低純資産額		50,000千円	50,000千円

〔損益計算書に関する注記〕

(単位：千円)

期別 項目	前期 (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)	当期 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
1. 不動産賃貸事業損益の内訳	A. 不動産賃貸事業収益 賃貸事業収入 家賃 8,059,415 共益費 265,909 土地賃貸収益 217,106 計 8,542,431 その他賃貸事業収入 駐車場使用料 22,110 付帯収益 149,463 その他収益 53,363 計 224,937 不動産賃貸事業収益合計 8,767,368 B. 不動産賃貸事業費用 賃貸事業費用 管理業務費 272,976 水道光熱費 200,860 公租公課 913,821 損害保険料 29,859 修繕費 127,634 減価償却費 1,292,097 その他費用 10,447 不動産賃貸事業費用合計 2,847,697 C. 不動産賃貸事業損益(A-B) 5,919,671	A. 不動産賃貸事業収益 賃貸事業収入 家賃 8,168,104 共益費 278,454 土地賃貸収益 123,745 計 8,570,303 その他賃貸事業収入 駐車場使用料 22,718 付帯収益 146,602 その他収益 46,707 計 216,028 不動産賃貸事業収益合計 8,786,331 B. 不動産賃貸事業費用 賃貸事業費用 管理業務費 260,884 水道光熱費 221,274 公租公課 882,366 損害保険料 30,713 修繕費 114,216 減価償却費 1,305,868 その他費用 19,965 不動産賃貸事業費用合計 2,835,289 C. 不動産賃貸事業損益(A-B) 5,951,042
2. 不動産等売却益の内訳	フレスポ稲毛 不動産等売却収入 2,450,000 不動産等売却原価 2,193,263 その他売却費用 9,860 不動産等売却益 246,876	該当事項はありません。

〔投資主資本等変動計算書に関する注記〕

項目	期別 前期 (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)	当期 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
発行可能投資口の総口数及び発行済投資口数	発行可能投資口の総口数 2,000,000口 発行済投資口数 242,000口	発行可能投資口の総口数 2,000,000口 発行済投資口数 242,000口

〔キャッシュ・フロー計算書に関する注記〕

項目	期別 前期 (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)	当期 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に記載されている科目の金額との関係	(平成24年3月31日現在) 現金及び預金 11,677,889千円 信託現金及び信託預金 1,186,703千円 現金及び現金同等物 12,864,593千円	(平成24年9月30日現在) 現金及び預金 12,255,401千円 信託現金及び信託預金 1,282,741千円 現金及び現金同等物 13,538,143千円

〔リース取引に関する注記〕

項目	期別 前期 (平成24年3月31日)	当期 (平成24年9月30日)
オペレーティング・リース取引	(貸主側) 未経過リース料 1年内 11,094,461千円 1年超 70,761,582千円 合計 81,856,044千円	(貸主側) 未経過リース料 1年内 11,251,704千円 1年超 68,561,204千円 合計 79,812,908千円

〔金融商品に関する注記〕

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

本投資法人は、運用資産の効率的な運用及び運用の安定性に資するため、資産の取得、修繕等または分配金の支払い、もしくは債務の返済(敷金等並びに借入金及び投資法人債の債務の返済を含みます。)、運転資金等に手当てされる資金を、借入れ、投資法人債の発行及び投資口の発行等により調達しています。

余資の運用は、安全性、換金性等を考慮し金利環境及び資金繰りを十分に鑑みたくえで慎重に行っています。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

借入れ、投資法人債の発行及び投資口の発行等によって調達した資金は、不動産及び不動産信託受益権の購入資金に充当しています。借入金及び預り敷金は流動性リスクに晒されていますが、企画財務部及び投資運用部からの報告に基づき資金繰り表を作成・更新するとともに、手許流動性を維持することにより、流動性リスクを管理しています。

なお、機動的な資金調達手段を確保するために極度借入枠設定契約を締結しています。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成24年3月31日現在の貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めていません。(注2)参照)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	11,677,889	11,677,889	—
(2) 信託現金及び信託預金	1,186,703	1,186,703	—
資産合計	12,864,593	12,864,593	—
(1) 短期借入金	22,500,000	22,500,000	—
(2) 1年内返済予定の長期借入金	36,300,000	36,484,600	184,600
(3) 投資法人債	10,000,000	10,029,211	29,211
(4) 長期借入金	65,200,000	65,985,938	785,938
(5) 預り敷金及び保証金	4,477,512	4,278,489	△199,023
(6) 信託預り敷金及び保証金	247,752	211,275	△36,476
負債合計	138,725,264	139,489,515	764,250

平成24年9月30日現在の貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めていません。(注2)参照)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	12,255,401	12,255,401	—
(2) 信託現金及び信託預金	1,282,741	1,282,741	—
資産合計	13,538,143	13,538,143	—
(1) 短期借入金	27,000,000	27,000,000	—
(2) 1年内返済予定の長期借入金	37,350,000	37,539,739	189,739
(3) 投資法人債	10,000,000	10,032,738	32,738
(4) 長期借入金	65,475,000	66,037,405	562,405
(5) 預り敷金及び保証金	4,852,075	4,679,788	△172,286
(6) 信託預り敷金及び保証金	247,752	216,782	△30,969
負債合計	144,924,827	145,506,454	581,626

（注1）金融商品の時価の算定方法に関する事項

資産

（1）現金及び預金 （2）信託現金及び信託預金

預金は全て短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

負債

（1）短期借入金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

（2）1年内返済予定の長期借入金 （4）長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入れを行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっています。

（3）投資法人債

投資法人債の時価については、元利金の合計額を投資法人債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いて算定する方法によっています。

（5）預り敷金及び保証金 （6）信託預り敷金及び保証金

預り敷金及び保証金、信託預り敷金及び保証金については、その将来キャッシュ・フローを、返済期日までの期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しています。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

預り敷金及び保証金のうち下記の預り敷金及び保証金については、返還予定時期等を見積もることが困難と認められることから時価開示の対象とはしていません。

区分	貸借対照表計上額 (千円)	
	前期 (平成24年3月31日)	当期 (平成24年9月30日)
預り敷金及び保証金	7,264,270	7,363,044

（注3）金銭債権の決算日(平成24年3月31日)後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
現金及び預金	11,677,889	—	—	—	—	—
信託現金及び信託 預金	1,186,703	—	—	—	—	—

金銭債権の決算日(平成24年9月30日)後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
現金及び預金	12,255,401	—	—	—	—	—
信託現金及び信託 預金	1,282,741	—	—	—	—	—

（注4）借入金及び投資法人債の決算日(平成24年3月31日)後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	22,500,000	—	—	—	—	—
1年内返済予定の 長期借入金	36,300,000	—	—	—	—	—
投資法人債	—	5,000,000	5,000,000	—	—	—
長期借入金	—	37,700,000	20,000,000	3,500,000	4,000,000	—

借入金及び投資法人債の決算日(平成24年9月30日)後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	27,000,000	—	—	—	—	—
1年内返済予定の 長期借入金	37,350,000	—	—	—	—	—
投資法人債	—	5,000,000	5,000,000	—	—	—
長期借入金	—	32,475,000	19,000,000	5,500,000	6,500,000	2,000,000

〔有価証券に関する注記〕

前期 (平成24年3月31日)	当期 (平成24年9月30日)
有価証券取引を行っていないため、該当事項はありません。	有価証券取引を行っていないため、該当事項はありません。

〔デリバティブ取引に関する注記〕

前期 (平成24年3月31日)	当期 (平成24年9月30日)
デリバティブ取引を行っていないため、該当事項はありません。	デリバティブ取引を行っていないため、該当事項はありません。

〔関連当事者との取引に関する注記〕

1. 親会社及び法人主要投資主等

前期(自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

当期(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

該当事項はありません。

2. 役員及び個人主要投資主等

前期(自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

当期(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

該当事項はありません。

3. 子会社等

前期(自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

当期(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

該当事項はありません。

4. 兄弟会社等

前期(自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：千円)

属性	会社等の名称	住所	資本金または出資金	事業の内容または職業	議決権等の所有(被所有)割合	関係内容		取引の内容	取引金額	科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
その他の関係会社の子会社	森トラスト㈱	東京都港区	10,000,000	都市開発、ホテルの経営及び投資事業	なし	なし	不動産の賃貸	不動産の賃貸	3,226,135	営業未収入金	435
										前受金	489,130
										預り敷金及び保証金	1,157,936

(注1)上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれています。

(注2)取引条件の決定方法等

不動産の購入、売却及び賃貸については、市場の実勢に基づいて決定しています。

(注3)千円未満を切り捨てて表示しています。

当期（自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日）

（単位：千円）

属性	会社等の名称	住所	資本金または出資金	事業の内容または職業	議決権等の所有（被所有）割合	関係内容		取引の内容	取引金額	科目	期末残高
						役員 の兼任等	事業上 の関係				
その他の 関係会社 の子会社	森トラスト㈱	東京都 港区	10,000,000	都市開 発、ホテ ルの経営 及び投資 事業	なし	なし	不動産 の賃貸	不動産の 賃貸	3,233,462	営業 未収入金	678
										前受金	489,125
										預り敷金 及び 保証金	1,175,676

(注1) 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれています。

(注2) 取引条件の決定方法等

不動産の購入、売却及び賃貸については、市場の実勢に基づいて決定しています。

(注3) 千円未満を切り捨てて表示しています。

〔税効果会計に関する注記〕

(単位：千円)

項目	期別 前期 (平成24年3月31日)	当期 (平成24年9月30日)
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳	(繰延税金資産)	(繰延税金資産)
	未払事業税損金不算入額 19	未払事業税損金不算入額 15
	繰延税金資産合計 19	繰延税金資産合計 15
	(繰延税金負債)	(繰延税金負債)
	圧縮積立金 50,509	圧縮積立金 50,509
	繰延税金負債合計 50,509	繰延税金負債合計 50,509
	(繰延税金負債の純額) 50,490	(繰延税金負債の純額) 50,493
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳	法定実効税率 39.33%	法定実効税率 36.59%
	(調整)	(調整)
	支払分配金の損金算入額 Δ 38.13%	支払分配金の損金算入額 Δ 36.58%
	住民税均等割 0.01%	住民税均等割 0.01%
	税率変更による期末繰延税金資産の減額修正 Δ 0.15%	税効果会計適用後の法人税等の負担率 0.02%
	税効果会計適用後の法人税等の負担率 1.06%	

〔退職給付に関する注記〕

前期 (平成24年3月31日)	当期 (平成24年9月30日)
退職給付制度がないため、該当事項はありません。	退職給付制度がないため、該当事項はありません。

〔資産除去債務に関する注記〕

前期 (平成24年3月31日)	当期 (平成24年9月30日)
該当事項はありません。	該当事項はありません。

〔セグメント情報等〕

1. セグメント情報

本投資法人の事業は不動産賃貸事業の単一事業であるため、開示対象となる報告セグメントがありませんので記載を省略しています。

2. 関連情報

前期(自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)

(1) 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため記載を省略しています。

(2) 地域ごとの情報

① 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため記載を省略しています。

② 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため記載を省略しています。

(3) 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称または氏名	営業収益	関連するセグメント
森トラスト株式会社	3, 226, 135	不動産賃貸事業

(注)その他の主要な顧客は「株式会社神戸製鋼所」です。

当期(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

(1) 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため記載を省略しています。

(2) 地域ごとの情報

① 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため記載を省略しています。

② 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため記載を省略しています。

(3) 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称または氏名	営業収益	関連するセグメント
森トラスト株式会社	3, 233, 462	不動産賃貸事業

(注)その他の主要な顧客は「株式会社神戸製鋼所」です。

〔賃貸等不動産に関する注記〕

本投資法人では、東京都を中心として、賃貸オフィスビルや賃貸商業施設等を所有しています。これら賃貸等不動産の貸借対照表計上額、増減額及び時価は次のとおりです。

(単位：千円)

用途		前期	当期
		(自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)	(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
オフィス	貸借対照表計上額		
	期首残高	214,332,089	213,501,028
	期中増減額	△831,060	6,244,846
	期末残高	213,501,028	219,745,875
	期末時価	205,020,000	211,570,000
商業施設	貸借対照表計上額		
	期首残高	44,701,037	42,324,690
	期中増減額	△2,376,347	△180,686
	期末残高	42,324,690	42,144,003
	期末時価	44,290,000	44,590,000
その他	貸借対照表計上額		
	期首残高	21,102,864	21,056,635
	期中増減額	△46,229	△140,014
	期末残高	21,056,635	20,916,620
	期末時価	18,400,000	18,410,000
合計	貸借対照表計上額		
	期首残高	280,135,990	276,882,354
	期中増減額	△3,253,636	5,924,145
	期末残高	276,882,354	282,806,499
	期末時価	267,710,000	274,570,000

(注1) 該当する賃貸等不動産の概要は後記「5. 参考情報／(2) 投資不動産物件」をご覧ください。

(注2) 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額です。

(注3) 前期増減額のうち増加理由は保有資産の改修工事であり、減少理由はフレスポ稲毛の譲渡(2,193,263千円)及び減価償却費です。当期増減額のうち主な増加理由は天神プライムの取得(6,987,793千円)であり、減少理由は減価償却費です。

(注4) 期末の時価については、社外の不動産鑑定士による鑑定評価額または調査価額です。

また、賃貸等不動産に関する損益は次のとおりです。

（単位：千円）

用途		前期	当期
		（自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日）	（自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日）
オフィス	損益計算書における金額		
	不動産賃貸事業収益	6,571,200	6,689,446
	不動産賃貸事業費用	2,105,627	2,136,029
	不動産賃貸事業損益	4,465,573	4,553,416
	不動産等売却益	—	—
商業施設	損益計算書における金額		
	不動産賃貸事業収益	1,450,269	1,355,956
	不動産賃貸事業費用	362,764	359,191
	不動産賃貸事業損益	1,087,505	996,764
	不動産等売却益	246,876	—
その他	損益計算書における金額		
	不動産賃貸事業収益	745,898	740,929
	不動産賃貸事業費用	379,305	340,069
	不動産賃貸事業損益	366,592	400,860
	不動産等売却益	—	—
合計	損益計算書における金額		
	不動産賃貸事業収益	8,767,368	8,786,331
	不動産賃貸事業費用	2,847,697	2,835,289
	不動産賃貸事業損益	5,919,671	5,951,042
	不動産等売却益	246,876	—

（注1）不動産賃貸事業収益及び不動産賃貸事業費用は、賃貸収益とこれに対応する費用（減価償却費、修繕費、保険料、公租公課等）であり、それぞれ「営業収益」及び「営業費用」に計上されています。

（注2）不動産等売却益は「営業収益」に計上されています。

〔1口当たり情報に関する注記〕

前期 (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)		当期 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	
1口当たり純資産額	584,409円	1口当たり純資産額	584,544円
1口当たり当期純利益	19,906円	1口当たり当期純利益	19,638円
<p>なお、1口当たり当期純利益は、当期純利益を期間の日数による加重平均投資口数で除することにより算出しています。</p> <p>また、潜在投資口調整後1口当たり当期純利益については、潜在投資口がないため、記載していません。</p>		<p>なお、1口当たり当期純利益は、当期純利益を期間の日数による加重平均投資口数で除することにより算出しています。</p> <p>また、潜在投資口調整後1口当たり当期純利益については、潜在投資口がないため、記載していません。</p>	

(注) 1口当たり当期純利益の算定上の基礎は以下のとおりです。

	前期 (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)	当期 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
当期純利益(千円)	4,817,376	4,752,608
普通投資主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通投資口に係る当期純利益(千円)	4,817,376	4,752,608
期中平均投資口数(口)	242,000	242,000

〔重要な後発事象に関する注記〕

固定資産の無償譲受

本投資法人が保有する丸紅大阪本社ビルにおいて、テナントとの定期建物賃貸借契約が平成24年9月30日をもって期間満了となったことに伴い、テナントが所有していたビル運営上必要な建物附属設備等の固定資産を平成24年10月1日に無償で譲り受けました。

この結果、平成25年3月期に固定資産受贈益(約740百万円)を特別利益に計上する見込みです。

(9) 発行済投資口数の増減

当期においては、増資等を行っておらず出資総額等の異動はありません。なお、前期以前の増資等の概要は以下のとおりです。

年月日	摘要	発行済投資口数(口)		出資総額(百万円)		備考
		増減	残高	増減	残高	
平成13年10月2日	私募設立	400	400	200	200	(注1)
平成14年3月27日	私募増資	5,200	5,600	2,600	2,800	(注2)
平成14年7月4日	私募増資	2,600	8,200	1,300	4,100	(注3)
平成14年9月27日	私募増資	4,500	12,700	2,250	6,350	(注4)
平成15年3月27日	私募増資	40,700	53,400	20,350	26,700	(注5)
平成15年9月19日	私募増資	66,600	120,000	33,300	60,000	(注6)
平成15年9月30日	私募増資	40,000	160,000	20,000	80,000	(注6)
平成20年10月1日	第三者割当増資	22,000	182,000	17,600	97,600	(注7)
平成22年5月31日	公募増資	60,000	242,000	39,009	136,609	(注8)

(注1) 1口当たり発行価格500,000円にて本投資法人が設立されました。

(注2) 1口当たり発行価格500,000円にて新規2物件の取得資金の調達を目的とする私募投資口の追加発行を行い、運用を開始しました。

(注3) 1口当たり発行価格500,000円にて新規物件取得の手付資金の調達を目的とする私募投資口の追加発行を行いました。

(注4) 1口当たり発行価格500,000円にて新規物件取得の残金決済資金の調達を目的とする私募投資口の追加発行を行いました。

(注5) 1口当たり発行価格500,000円にて新規3物件の取得資金の調達を目的とする私募投資口の追加発行を行いました。

(注6) 1口当たり発行価格500,000円にて新規物件取得資金及び借入金返済資金の調達を目的とする私募投資口の追加発行を行いました。

(注7) 1口当たり発行価格800,000円にて新規物件取得に伴う借入金の返済資金を調達することを目的とする第三者割当による新投資口の追加発行を行いました。

(注8) 1口当たり発行価格670,800円(引受価額650,160円)にて新規物件取得に伴う借入金の返済資金を調達することを目的とする公募による新投資口の追加発行を行いました。

4. 役員の異動

役員の異動については、開示内容が定まった時点で開示します。

5. 参考情報

(1) 本投資法人の財産の構成

資産の種類	地域区分	前期 平成24年3月31日現在		当期 平成24年9月30日現在	
		保有総額 (注1)(百万円)	対総資産比率 (注2)(%)	保有総額 (注1)(百万円)	対総資産比率 (注2)(%)
不動産	東京都心部(注3)	175,578	60.6	174,813	59.0
	その他(注4)	41,215	14.2	41,098	13.9
信託不動産	東京都心部(注3)	40,136	13.8	40,085	13.5
	その他(注4)	19,945	6.9	26,803	9.0
小計		276,876	95.5	282,801	95.4
その他の資産		13,056	4.5	13,714	4.6
資産総額計		289,933	100.0	296,515	100.0

(注1)「保有総額」は、決算日時点の貸借対照表計上額(不動産及び信託不動産については、減価償却後の帳簿価額)によっています。

(注2)「対総資産比率」は、小数点第2位を四捨五入し記載しています。

(注3)千代田区・中央区・港区・品川区・渋谷区・新宿区

(注4)首都圏(東京都(東京都心部を除く)・神奈川県・千葉県・埼玉県)及びその他主要都市

(2) 投資不動産物件

平成24年9月30日現在、本投資法人が保有する不動産及び本投資法人が保有する不動産信託受益権にかかる信託不動産は計14物件あり、これらの不動産は、いずれも本投資法人、あるいは信託不動産については信託契約に基づく信託受託者によって賃貸されています。

① 不動産及び信託不動産の内容一覧

平成24年9月30日現在において、本投資法人が保有する不動産並びに不動産信託受益権及びその信託財産たる信託不動産の概要は以下のとおりです(以下、不動産並びに不動産信託受益権及びその信託財産たる信託不動産を個別に、または総称して「不動産等資産」といいます。)

不動産等資産の概要

名称	所在地(地番)	面積		構造(注2) /階数	所有形態	
		土地(m ²)	建物(m ²)		土地	建物
銀座MTRビル(注3)	東京都中央区銀座六丁目209番2他	4,655.56	38,901.73	SRC・RC・S B5/17F	所有権	所有権
三田MTビル	東京都港区三田三丁目202番1	3,489.80	21,043.02	SRC B1/11F	所有権	所有権
丸紅大阪本社ビル	大阪市中央区本町二丁目3番1他	5,878.72	41,574.47	S・SRC B3/19F	所有権	所有権
新横浜TECHビル(注4)	横浜市港北区新横浜三丁目9番1他	2,671.11	A館：11,636.35 B館：13,550.87 合計：25,187.22	A館：SRC B1/9F B館：S・SRC B1/16F	所有権	所有権
大崎MTビル(注5)	東京都品川区北品川五丁目689番2他	13,852.74	26,980.68	S・SRC B3/14F	所有権	所有権
ONビル(注5)(注6)	東京都品川区北品川五丁目746番1他	10,850.67	32,812.27	S・SRC B2/21F	所有権	所有権
東京汐留ビルディング(注7)	東京都港区東新橋一丁目5-48、5-69、5-70、5-79のうち街区番号4街区保留地符号4-1	17,847	191,394.06	SRC・RC・S B4/37F	所有権	所有権
天神プライム(注6)(注8)	福岡市中央区天神二丁目138番他	1,110.73	7,722.04	S・RC B1/12F	所有権	所有権
イトーヨーカドー湘南台店	神奈川県藤沢市石川六丁目2番1	35,209.93	53,393.66	S 5F	所有権	所有権
フレスポ稲毛(注6)	千葉県稲毛区長沼原町731番17	39,556.71	—	—	所有権	—
イトーヨーカドー新浦安店	千葉県浦安市明海四丁目1番1他	33,537.07	57,621.38	S 5F	所有権	所有権
新橋駅前MTRビル	東京都港区新橋二丁目28番2他	1,069.88	7,820.45	S・SRC・RC B2/8F	所有権	所有権
パークレーンプラザ	東京都渋谷区神宮前二丁目30番6	1,702.95	5,246.78	RC B1/7F	所有権	所有権
ホテルオークラ神戸(注6)	神戸市中央区波止場町48番1他	30,944.44	72,246.86	SRC・S B2/35F	所有権	所有権

(注1)「所在地(地番)」、「面積」及び「構造/階数」は、不動産登記簿に記載された事項を記載しています。但し、東京汐留ビルディングについては、当該土地が、東京都による土地区画整理事業において保留地となることが予定されている土地であるため、「所在地(地番)」及び「面積」には、東京都作成の保留地台帳記載事項証明書に基づく所在及び面積を記載しています。なお、本件土地の面積は、換地処分公告の日の翌日に確定するものであるため、上記面積から変動する可能性があります。

(注2)「構造」について、「SRC」は鉄骨鉄筋コンクリート造、「RC」は鉄筋コンクリート造、「S」は鉄骨造を、それぞれ意味します。

(注3)銀座MTRビルの土地面積は、本件建物の敷地である土地全5筆の合計面積であり、他の共有者(新橋演舞場株式会社)の共有持分を含んでいます。当該土地全5筆のうち、4筆(合計面積367.69m²)は本投資法人が単独で所有しており、1筆(面積4,287.87m²、本投資法人の共有持分10,000分の6,570)は他の共有者と共有しています。また、銀座MTRビルの建物は、区分所有建物であり、建物面積は区分所有建物の一棟の建物の延床面積を記載しています。なお、本投資法人が所有する専有部分の床面積は23,614.49m²です。

(注4)新横浜TECHビルは、A館及びB館の2棟の建物とその敷地により構成される不動産です。

(注5)大崎MTビルの土地面積は、本投資法人が所有し、または共有する土地全17筆の合計面積であり、他の共有者の共有持分を含んでいます。当該土地全17筆のうち、10筆(合計面積1,807.12m²)は本投資法人が単独で所有しており、3筆(合計面積1,073.67m²)については、本投資法人が1,081,560分の710,234の共有持分を保有し、1筆(面積121.28m²)については本投資法人が5分の1の共有持分を保有し、3筆(合計面積10,850.67m²)については、本投資法人が1,000,000分の159,861の共有持分を保有しています。

また、ONビルの土地面積は、本投資法人を唯一の信託受益者とする信託受託者が共有持分を保有する土地3筆の合計面積(10,850.67m²)であり、信託受託者が1,000,000分の840,139の共有持分を保有しています。信託受託者保有分以外の共有持分は、上記記載のとおり本投資法人が大崎MTビルの敷地として保有しています。従って、当該3筆(合計面積10,850.67m²)については、大崎MTビルの土地面積の一部及びONビルの土地面積として各々に記載しています。

(注6)上記14物件のうち、ONビル、天神プライム、フレスポ稲毛及びホテルオークラ神戸は信託不動産に、その他の10物件は不動産に分類されます。またフレスポ稲毛にかかる信託不動産は土地のみであり、建物は含まれていません。詳細は、後記「③ 不動産等資産の詳細な情報」をご覧ください。

- (注7) 東京汐留ビルディングの土地は、東京都の実施する東京都市計画事業汐留土地地区画整理事業において土地地区画整理法第96条第1項に規定される保留地となることが予定されている土地です。本投資法人が保有しているのは、東京都に対する当該土地の停止条件付所有権移転請求権であり、本投資法人は、前記土地地区画整理事業にかかる換地処分がなされたときに、かかる換地処分の公告があった日の翌日において、当該土地の所有権(共有持分100分の50)を取得します。また、本投資法人は、当該土地の所有権を取得するまでの間の当該土地の使用収益権を取得しています。東京汐留ビルディングの土地面積は、本投資法人が準共有する上記停止条件付所有権移転請求権及び使用収益権の対象となる土地の面積であり、他の共有者の準共有持分にかかる部分を含んでいます。当該土地にかかる権利のうち、本投資法人の準共有持分は100分の50です。また、東京汐留ビルディングの建物は、共有建物であり、延床面積に本投資法人の共有持分(100分の50)を乗じた面積は95,697.03㎡です。
- (注8) 天神プライムの土地面積は、本件建物の敷地である土地全7筆の合計面積であり、その一部に借地を含んでいます。当該土地全7筆のうち、6筆(合計面積1,081.75㎡)は本投資法人を唯一の信託受益者とする信託受託者が単独で所有しており、1筆(面積28.98㎡)は本投資法人を唯一の信託受益者とする信託受託者が土地賃借権を有しています。

不動産等資産の区分、価格及び投資比率

地域区分	用途区分 (注1)	名称	取得価格 (注2) (百万円)	帳簿価額 (百万円)	期末算定 価額 (注3) (百万円)	直接 還元法	DCF法		期末算定価額 評価機関	投資比率 (注4)
						還元 利回り	割引率	最終還元 利回り		
東京都 心部	オフィス ビル	銀座MTRビル	16,000	16,488	15,500	4.5%	4.3%	4.8%	一般財団法人 日本不動産 研究所	5.6%
		三田MTビル	16,000	15,793	16,000	4.9%	4.5%	4.9%	一般財団法人 日本不動産 研究所	5.6%
		大崎MTビル	13,526 (注5)	12,978	14,900	4.5%	4.2%	4.7%	一般財団法人 日本不動産 研究所	4.7%
		ONビル	39,900	40,085	31,600	4.6%	4.3%	4.8%	一般財団法人 日本不動産 研究所	13.9%
		東京汐留ビルディング	110,000	108,517	113,800	4.3%	4.3%	4.5%	株式会社立地 評価研究所	38.2%
	小計		195,426	193,864	191,800	—				67.9%
	商業施設	新橋駅前MTRビル	18,000	17,740	18,800	4.6%	4.4%	4.8%	日本土地建物 株式会社	6.3%
	小計		18,000	17,740	18,800	—				6.3%
	その他	パークレーンプラザ	3,200	3,293	3,010	4.5%	5.2%	4.1%	日本土地建物 株式会社	1.1%
	小計		3,200	3,293	3,010	—				1.1%
小計		216,626	214,899	213,610	—				75.3%	
その他	オフィス ビル	丸紅大阪本社ビル	12,500	12,094	8,330	5.4%	5.2%	5.6%	一般財団法人 日本不動産 研究所	4.3%
		新横浜TECHビル	6,900	6,794	4,130	5.9%	5.7%	6.2%	日本土地建物 株式会社	2.4%
		天神プライム	6,940	6,987	7,310	5.5%	5.3%	5.8%	一般財団法人 日本不動産 研究所	2.4%
	小計		26,340	25,876	19,770	—				9.2%
	商業施設	イトーヨーカドー 湘南台店	11,600	10,585	11,900	5.6%	5.3%	5.8%	一般財団法人 日本不動産 研究所	4.0%
		フレスポ稲毛	2,100 (注6)	2,193	2,690	8.8%	8.4%	— (注7)	一般財団法人 日本不動産 研究所	0.7%
		イトーヨーカドー 新浦安店	12,150	11,624	11,200	5.7%	5.5%	6.0%	一般財団法人 日本不動産 研究所	4.2%
	小計		25,850	24,403	25,790	—				9.0%
その他	ホテルオークラ 神戸	19,000	17,622	15,400	5.6%	5.4%	5.7%	株式会社立地 評価研究所	6.6%	
小計		19,000	17,622	15,400	—				6.6%	
小計		71,190	67,902	60,960	—				24.7%	
合計		287,816	282,801	274,570	—				100.0%	

(注1) 複数の用途を有する物件については、その主たる用途をもってその属性を判断します。東京汐留ビルディングについては、主たる用途である「オフィスビル」に区分しています。以下同じです。

(注2) 「取得価格」は、当該不動産等資産の取得に要した諸費用(売買媒介手数料、公租公課等)を含まない金額(売買契約書等に記載された売買価格)を記載しています。以下同じです。

(注3) 「期末算定価額」は、本投資法人の規約及び内閣府令「投資法人の計算に関する規則」に基づき、不動産鑑定士が収益還元法により求めた価額(平成24年9月30日を価格時点とする。)を記載しています。

(注4) 「投資比率」とは不動産等資産の取得価格の合計に対する各資産の取得価格の比率をいい、小数点第2位を四捨五入し記載しています。

(注5) 大崎MTビルの取得価格は、平成17年3月31日(7,870百万円)及び平成17年10月28日(5,656百万円)の各取得価格の合計額を記載しています。

(注6) フレスポ稲毛の取得価格については、平成24年2月29日に信託土地の50%を譲渡したため、当該物件全体の取得価格である4,200百万円の50%に相当する価格を記載しています。

(注7)フレスポ稲毛は、最終還元利回りが設定されていません。

② 不動産等資産における賃貸借の状況一覧

(i) 不動産等資産における賃貸借の状況

平成24年9月30日現在において、本投資法人が保有する不動産等資産の賃貸借の状況は以下のとおりです。

なお、本投資法人が保有する不動産等資産のうち、各不動産等資産の総賃料収入が、第21期(平成24年4月1日から平成24年9月30日までの6か月間)における全不動産等資産の総賃料収入の合計の10%以上を占める不動産等資産は、ONビル、東京汐留ビルディングの2物件になります。

不動産等資産の賃貸借の状況

地域区分	用途区分	名称	総賃料収入 (注1) (百万円)	対総賃料収入 比率(注2)	総賃貸可能 面積(注3) (㎡)	総賃貸面積 (注4) (㎡)	テナント 総数
東京都心部	オフィス ビル	銀座MTRビル	(注5)	(注5)	13,637.38	13,629.99	5
		三田MTビル	718	8.2%	15,419.88	15,419.88	3
		大崎MTビル	437	5.0%	22,634.06	22,634.06	1(注6)
		ONビル	(注5)	(注5)	20,654.60	20,654.60	1
		東京汐留ビルディング	2,795	31.8%	95,697.03	95,697.03	1
	小計		5,560	63.3%	168,042.95	168,035.56	11
	商業施設	新橋駅前MTRビル	459	5.2%	8,055.00	8,055.00	1
	小計		459	5.2%	8,055.00	8,055.00	1
	その他	パークレーンプラザ	101	1.2%	4,443.03	4,180.39	17(注7)
	小計		101	1.2%	4,443.03	4,180.39	17
小計			6,121	69.7%	180,540.98	180,270.95	29
その他	オフィス ビル	丸紅大阪本社ビル	600	6.8%	41,574.47	41,574.47	1
		新横浜TECHビル	404	4.6%	18,359.46	16,428.58	7
		天神プライム	124	1.4%	5,993.80	5,993.80	14(注8)
	小計		1,128	12.8%	65,927.73	63,996.85	22
	商業施設	イトーヨーカドー湘南台店	395	4.5%	53,393.66	53,393.66	1
		フレスポ稲毛	123	1.4%	39,556.71	39,556.71	1
		イトーヨーカドー新浦安店	378	4.3%	57,621.38	57,621.38	1
	小計		896	10.2%	150,571.75	150,571.75	3
	その他	ホテルオークラ神戸	639	7.3%	72,246.86	72,246.86	1
	小計		639	7.3%	72,246.86	72,246.86	1
小計			2,664	30.3%	288,746.34	286,815.46	26
合計			8,786	100.0%	469,287.32	467,086.41	55

(注1)「総賃料収入」は、第21期の不動産賃貸事業収益(家賃、共益費、その他賃貸事業収入等)を記載しています。

(注2)「対総賃料収入比率」は小数点第2位を四捨五入し記載しています。

(注3)「総賃貸可能面積」には、不動産等資産の主たる用途として賃貸の用に供することが可能な部分の面積のほか、当該主たる用途以外の用途(事務所、店舗あるいは倉庫等)に供することが可能な部分の面積も含むものとし、これらの合計面積(共用部分等を賃貸している場合には当該面積を含みます。)を記載しています。なお、銀座MTRビルについては、本投資法人が保有する専有部分のうち賃貸の用に供することが可能な部分の面積及び他の共有者(新橋演舞場株式会社)との共有部分のうち賃貸の用に供することが可能な部分に本投資法人の共有持分(1,000分の682)を乗じた面積の合計を記載しています。また大崎MTビルについては、建物の総賃貸可能面積(26,980.68㎡)に本投資法人の共有持分(1,000,000分の838,899)を乗じた面積を記載しています。東京汐留ビルディングについては、建物の総賃貸可能面積(191,394.06㎡)に本投資法人の共有持分(100分の50)を乗じた面積を記載しています。

(注4)「総賃貸面積」は、総賃貸可能面積に含まれ、かつ実際に賃貸借契約が締結され賃貸が行われている面積を記載しています。なお、銀座MTRビルについては、本投資法人が保有する専有部分のうち賃貸借契約が締結され賃貸が行われている面積及び他の共有者(新橋演舞場株式会社)との共有部分のうち賃貸借契約が締結され賃貸が行われている部分に本投資法人の共有持分(1,000分の682)を乗じた面積の合計を記載しています。また、大崎MTビルについては、建物の総賃貸面積(26,980.68㎡)に本投資法人の共有持分(1,000,000分の838,899)を乗じた面積を記載しています。東京汐留ビルディングについては、建物の総賃貸面積(191,394.06㎡)に本投資法人の共有持分(100分の50)を乗じた面積を記載しています。

(注5)銀座MTRビル及びONビルの「総賃料収入」及び「対総賃料収入比率」については、やむを得ない事情により開示していません。

(注6)大崎MTビルは、賃料収入がサブリース契約の賃料に連動する仕組みのマスターリース契約を採用しており、サブリース契約に基づくテナント総数は9です。

(注7)パークレーンプラザは、一のテナントと複数住戸の賃貸借契約を締結している場合、住戸数をテナント数として算定しています。

(注8)天神プライムは、本投資法人が信託受託者との間で締結したマスターリース契約に基づき土地及び建物を借り受けたうえで、本投資法人から各テナントに対してサブリースをする仕組みを採用しており、上記表中の当該物件のテナント総数については、サブリース契約に基づくテナント総数を記載しています。

不動産等資産の稼働率の推移

地域区分	用途区分	名称	最近5年の稼働率(注1)の推移(%)									
			平成24年		平成23年		平成22年		平成21年		平成20年	
			9月末	3月末	9月末	3月末	9月末	3月末	9月末	3月末	9月末	3月末
東京都心部	オフィスビル	銀座MTRビル	99.9	99.9	99.9	85.6	85.6	64.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		三田MTビル	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		大崎MTビル(注2)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		ONビル	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—
		東京汐留ビルディング	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—	—	—	—	—
		小計	99.9	99.9	99.9	98.8	98.8	94.3	100.0	100.0	100.0	100.0
	商業施設	新橋駅前MTRビル	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		小計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	その他	パークレーンプラザ	94.1	96.7	91.4	86.7	81.2	83.7	81.2	77.5	88.0	88.7
		小計	94.1	96.7	91.4	86.7	81.2	83.7	81.2	77.5	88.0	88.7
	小計	99.9	99.9	99.8	98.6	98.5	94.3	99.2	99.1	99.5	99.5	
その他	オフィスビル	丸紅大阪本社ビル	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		新横浜TECHビル	89.5	89.5	89.5	83.1	73.4	90.7	90.7	90.7	100.0	100.0
		天神プライム(注3)	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		小計	97.1	96.8	96.8	94.8	91.8	97.1	97.1	97.1	100.0	100.0
	商業施設	イトーヨーカドー湘南台店	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		フレスポ稲毛	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		イトーヨーカドー新浦安店	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		小計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	その他	ホテルオークラ神戸	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		小計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	小計	99.3	99.3	99.4	99.0	98.5	99.5	99.5	99.5	100.0	100.0	
	合計	99.5	99.5	99.5	98.9	98.5	98.3	99.4	99.4	99.9	99.9	

(注1)「稼働率」は小数点第2位を四捨五入し記載しています。各不動産等資産の稼働率は総賃貸可能面積に占める総賃貸面積の割合を、各区分毎の稼働率の小計(または全不動産等資産の稼働率の合計)は総賃貸可能面積の小計(または合計)に占める総賃貸面積の小計(または合計)の割合を記載しています。

(注2)大崎MTビルは、賃料収入がサブリース契約の賃料に連動する仕組みのマスターリース契約を採用していますが、上記表中の当該物件の稼働率については、マスターリース契約に基づく稼働率を記載しています。なお、サブリース契約に基づく稼働率は以下のとおりです。

地域区分	用途区分	名称	最近5年の稼働率(注1)の推移(%)									
			平成24年		平成23年		平成22年		平成21年		平成20年	
			9月末	3月末	9月末	3月末	9月末	3月末	9月末	3月末	9月末	3月末
東京都心部	オフィスビル	大崎MTビル	96.9	92.7	89.5	85.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(注3)天神プライムは、本投資法人が信託受託者との間で締結したマスターリース契約に基づき土地及び建物を借り受けたうえで、本投資法人から各テナントに対してサブリースをする仕組みを採用しており、上記表中の当該物件の稼働率については、サブリース契約に基づく稼働率を記載しています。

(ii) 主要なテナントの状況

平成24年9月30日現在において、本投資法人が保有する不動産等資産について、一のテナントに対する賃貸面積(複数の不動産等資産に一のテナントが入居している場合は、その賃貸面積の合計)が全不動産等資産の総賃貸面積の合計の10%以上を占めるテナント(以下「主要なテナント」といいます。)は、森トラスト株式会社、株式会社イトーヨーカ堂、株式会社ホテルオークラ神戸の3社になります。

主要なテナントの状況

賃貸対象	テナント名称 (業種)	入居物件	契約開始日 (注1) 契約満了日	賃貸面積 (注2) (㎡)	総賃貸面積 (ポートフォリオ 全体) 合計対比(注3)		期末年間 契約賃料 (注4) (百万円)
建物	森トラスト株式会社 (不動産業)	大崎MTビル	平成22年4月1日 平成25年3月31日	22,634.06	4.8%	25.3%	903
		東京汐留ビルディング	①平成22年4月13日 平成32年4月12日 (オフィス・店舗) ②平成22年4月13日 平成47年12月31日 (ホテル)	95,697.03	20.5%		5,590
	株式会社イトーヨーカ堂 (小売業)	イトーヨーカドー湘南台店	平成14年11月21日 平成34年11月20日	53,393.66	11.4%	23.8%	790
		イトーヨーカドー新浦安店	平成16年7月30日 平成32年7月29日	57,621.38	12.3%		756
	株式会社ホテルオークラ 神戸 (サービス業)	ホテルオークラ神戸	平成14年4月25日 平成34年3月31日	72,246.86		15.5%	1,263
合計				301,592.99		64.6%	—
総賃貸面積(ポートフォリオ全体)合計(注2)				467,086.41		—	—

(注1) 本投資法人が、前所有者から賃貸借契約の賃貸人たる地位を承継した場合には、前所有者が賃借人と締結した賃貸借契約の契約開始日を記載しています。

(注2) 「賃貸面積」は、主要なテナントとの間で、賃貸借契約が締結され賃貸が行われている面積を記載しています。「総賃貸面積(ポートフォリオ全体)合計」は、主要なテナントを含む全てのテナントとの間で、賃貸借契約が締結され賃貸が行われている面積の合計を記載しています。なお、大崎MTビルについては、建物の総賃貸面積(26,980.68㎡)に本投資法人の共有持分(1,000,000分の838,899)を乗じた面積を記載しています。また、東京汐留ビルディングについては、建物の総賃貸面積(191,394.06㎡)に本投資法人の共有持分(100分の50)を乗じた面積を記載しています。

(注3) 「総賃貸面積(ポートフォリオ全体)合計対比」については、小数点第2位を四捨五入し記載しています。

(注4) 「期末年間契約賃料」とは、平成24年9月30日現在、本投資法人が主要なテナントとの間で締結した賃貸借契約上の月額賃料の12か月分の合計を記載しています。

(iii) 主要なテナントとの賃貸借契約の特記事項

平成24年9月30日現在において、主要なテナントとの間で締結している賃貸借契約に関して特記すべき事項等(契約更改の方法、敷金・保証金、その他賃貸借契約に関して特記すべき事項等)は以下のとおりです。

(イ) 森トラスト株式会社

物件名称	大崎MTビル
契約形態 契約期間	・定期建物賃貸借契約(一棟一括賃貸借) (借地借家法第38条に規定する定期建物賃貸借契約) ・平成22年4月1日から平成25年3月31日まで
月額契約賃料(注)	75,255,689円
敷金・保証金等(注)	敷金1,175,676,361円
期間満了時の更新について	借地借家法第38条に規定する定期建物賃貸借契約であるため更新はありません。但し、当事者間の合意により、本契約期間満了日の翌日を始期とする新たな定期建物賃貸借契約を締結することができます。
中途解約について	契約期間中、中途解約はできません。但し、転借人から森トラスト株式会社(本表及び次表において、以下「テナント」といいます。)に対し、転貸借契約における賃料が支払われない場合には、本投資法人及びテナントは本定期建物賃貸借契約(マスターリース契約)を中途解約することができます。
転貸借契約について	・本件建物は、本投資法人とテナント間のマスターリース契約に基づき、テナントに一棟一括賃貸しています。 ・テナントは、本投資法人からの書面による承諾を得たうえで、本件建物の全部または一部を第三者に転貸することができます。

(注) 月額契約賃料は、本投資法人がその共有持分(1,000,000分の838,899)に基づいて収受しうる額を記載しています。また、月額契約賃料及び敷金は、転借人の入居状況や転貸借契約の賃料改定等により変動することがあります。

物件名称	東京汐留ビルディング
契約形態 契約期間	・定期建物賃貸借契約(一棟一括賃貸借) (借地借家法第38条に規定する定期建物賃貸借契約) ①平成22年4月13日から平成32年4月12日まで(オフィス・店舗) ②平成22年4月13日から平成47年12月31日まで(ホテル)
月額契約賃料 (注1)(注2)	① : 435,833,334円(オフィス・店舗) ②-1 : 30,000,000円(ホテル)(平成22年4月13日から平成32年4月12日まで) ②-2 : 35,000,000円(ホテル)(平成32年4月13日から平成47年12月31日まで)
敷金・保証金等	なし
期間満了時の更新について	借地借家法第38条に規定する定期建物賃貸借契約であるため更新はありません。但し、当事者間の合意により、本契約期間満了日の翌日を始期とする新たな定期建物賃貸借契約を締結することができます。
中途解約について	契約期間中、中途解約はできません。
転貸借契約について	・本件建物は、本投資法人とテナント間のマスターリース契約に基づき、テナントに一棟一括賃貸しています。 ・テナントは、本投資法人からの書面による承諾を得たうえで、本件建物の全部または一部を第三者に転貸することができます。

(注1) 本件賃貸借については賃料の改定は行わないこととし、借地借家法第32条を適用しない旨の合意がなされています。

(注2) 月額契約賃料について①及び②-1は、賃料とは別途、本件建物共用部の維持管理費用をテナントが負担することを前提としています。平成32年4月13日以降の月額契約賃料②-2は、本件建物共用部のうちホテルにかかる維持管理費用をテナントが負担せずに別途賃料人が負担するため、当該維持管理費用の見込分を賃料として加算しています。但し、オフィス・店舗に関する賃貸借契約を再契約し、引き続き本件建物の一部の維持管理費用を賃料とは別途テナントが負担する場合には、②-1の適用期間が延長され、ホテルの月額契約賃料は30,000,000円となります。

(ロ)株式会社イトーヨーカ堂

物件名称	イトーヨーカドー湘南台店
契約形態 契約期間	・建物賃貸借契約(一棟一括賃貸借) ・平成14年11月21日から平成34年11月20日まで
月額契約賃料	65,833,400円
敷金・保証金等	敷金683,460,000円
期間満了時の更新について	期間満了の場合の更新については、本投資法人と株式会社イトーヨーカ堂(本表及び次表において、以下「テナント」といいます。)間の協議によると規定しています。
中途解約について	平成14年11月21日から15年が経過しないうちは、中途解約はできません。 但し、テナントは、一定の損害金を支払うことによって解約することができます。
転貸借契約について	・本件建物は、本投資法人とテナント間の建物賃貸借契約に基づき、テナントに一棟一括賃貸しています。 ・テナントは、本件建物をショッピングセンターとして、他の専門店等の出店も得てバラエティーに富んだ売場を構成する必要があることから、テナントの関連会社あるいは専門店等に転貸することができます。本投資法人とテナントとの間の建物賃貸借契約が終了する場合は、テナントは当該転借人を退去させなければならない旨合意されています。

物件名称	イトーヨーカドー新浦安店
契約形態 契約期間	・建物賃貸借契約(一棟一括賃貸借) ・平成16年7月30日から平成32年7月29日まで
月額契約賃料	63,027,520円
敷金・保証金等	敷金756,330,240円
期間満了時の更新について	期間満了の場合の更新については、本投資法人とテナント間の協議によると規定しています。
中途解約について	平成16年7月30日から13年が経過しないうちは、中途解約はできません。 但し、テナントは、一定の損害金を支払うことによって解約することができます。
転貸借契約について	・本件建物は、本投資法人とテナント間の建物賃貸借契約に基づき、テナントに一棟一括賃貸しています。 ・テナントは、本件建物をショッピングセンターとして、他の専門店等の出店も得てバラエティーに富んだ売場を構成する必要があることから、テナントの関連会社あるいは専門店等に転貸することができます。本投資法人とテナントとの間の建物賃貸借契約が終了する場合は、テナントは当該転借人を退去させなければならない旨合意されています。

(ハ)株式会社ホテルオークラ神戸

物件名称	ホテルオークラ神戸	
契約形態 契約期間	<ul style="list-style-type: none"> ・定期建物賃貸借契約(一棟一括賃貸借) (借地借家法第38条に規定する定期建物賃貸借契約) ・平成14年4月25日から平成34年3月31日まで 	
月額契約賃料	固定賃料	88,637,500円
	変動賃料	固定資産税・都市計画税相当額及び損害保険料相当額の合計(年額)の12分の1
敷金・保証金等	敷金1,312,500,000円	
期間満了時の更新について	借地借家法第38条に規定する定期建物賃貸借契約であるため更新はありません。但し、当事者間の合意により、本契約期間満了日の翌日を始期とする新たな定期建物賃貸借契約を締結することができます。	
中途解約について	契約期間中、中途解約はできません。	
転貸借契約について	<ul style="list-style-type: none"> ・本件建物は、信託受託者たる三菱UFJ信託銀行株式会社と株式会社ホテルオークラ神戸(以下本表では「テナント」といいます。)間の定期建物賃貸借契約に基づき、テナントに一棟一括賃貸しています。 ・テナントは、ホテル運営に必要な専門店等に本件信託建物の一部を転貸しています。テナントは、全ての転借人たる専門店等から定期建物賃貸借契約が契約期間満了により終了する場合には転貸借契約も終了させることについて同意を取得しています。 	

③ 不動産等資産の詳細な情報

平成24年9月30日現在において、本投資法人が保有する不動産等資産の詳細な情報は以下のとおりです。

1. 「不動産等資産の概要」欄の記載について
 - (1) 「地積・延床面積」、「構造/階数」及び「建築時期」には、別段の断りがない限り、不動産登記簿に記載された事項を記載しています。
 - (2) 「構造」について、「SRC造」は鉄骨鉄筋コンクリート造、「RC造」は鉄筋コンクリート造、「S造」は鉄骨造を、それぞれ意味します。
 - (3) 区分所有建物、共有建物及び共有土地に関しては、区分所有建物の一棟の建物の延床面積(他の区分所有者が所有する面積を含みます。)、共有建物の延床面積(他の共有者の共有持分を含みます。)及び共有土地全体の面積(他の共有者の共有持分を含みます。)を記載しています。
 - (4) 「用途地域等」には、都市計画法第8条第1項第1号、第2号、第5号及び第9号に掲げる「用途地域」、「特別用途地区」、「防火地域又は準防火地域」及び「臨港地区」並びに都市再生特別措置法第2条第3項及び5項に掲げる「都市再生緊急整備地域」及び「特定都市再生緊急整備地域」の区分を記載しています。
2. 「特定資産の概要」欄の記載について
 - (1) 「特定資産の種類」には、特定資産としての不動産等資産の種別を記載しています。
 - (2) 「取得価格」には、当該不動産等資産の取得に要した諸費用(不動産売買媒介手数料等)を含まない金額(不動産売買契約書等に記載された売買価格)を記載しています。
3. 「取得時の不動産鑑定の概要」欄の記載について

「鑑定評価額」は、不動産等資産を取得検討する際に取得した不動産鑑定評価書に基づく評価額を記載しています。
4. 「物件収支状況」欄の記載について
 - (1) 物件収支状況は本投資法人の第21期(平成24年4月1日から平成24年9月30日までの6か月間)の金額を記載しています。なお、記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。
 - (2) 「NOI」はネット・オペレーティング・インカムを意味し、各不動産等資産の不動産賃貸事業収益から不動産賃貸事業費用(減価償却費を除きます。)を控除した金額です。また「NCF」は、ネット・キャッシュ・フローを意味し、各不動産等資産のNOIから資本的支出を控除した金額を記載しています。
 - (3) 不動産賃貸事業損益は、不動産賃貸事業収益から不動産賃貸事業費用を控除した金額です。不動産賃貸事業費用には、不動産等資産の収支に直接的にかかわらない資産運用報酬、支払利息等を含んでいません。
 - (4) 公租公課の内訳で「固定資産税」には第21期における固定資産税及び都市計画税の合計を記載しています。なお、不動産等資産の取得に伴い精算金として譲渡人に支払った固定資産税及び都市計画税相当額については、費用計上せず取得原価に算入しています。
 - (5) 区分所有建物、共有建物及び共有土地の場合には、本投資法人の持分相当に対する金額を記載しています。
5. 「平成24年度公租公課」欄の記載について
 - (1) 平成24年度の固定資産税(償却資産にかかるものを除きます。)及び都市計画税の税額を記載しています。区分所有建物、共有建物及び共有土地の場合には、本投資法人の持分相当に対する金額を記載しています。
 - (2) 固定資産税及び都市計画税の納付義務は原則として毎年1月1日時点の所有者に課されます。従って平成24年1月1日の翌日以降、平成24年中に取得した不動産等資産について、第21期に納付義務はありませんが、参考情報として平成24年度の固定資産税及び都市計画税の税額を記載しています。
6. 「特記事項」欄の記載について

原則として平成24年9月30日現在の不動産の状況(不動産の構造、現況その他投資不動産の価格に重要な影響を及ぼす事項(当該不動産等資産に付着しているテナント以外の第三者の権利及びかかる権利に基づく制限等、区分所有建物、共有建物及び共有土地等において、他の共有者等との間に存する管理規約、協定書及び覚書等に記載された重要な事項、当該不動産等資産に関する行政法規における制限等を含みますが、これらに限られません。))を記載しています。なお、当該不動産等に担保の設定がなされている場合は、その旨を「特記事項」欄に記載します(平成24年9月30日現在、担保の設定はなされていません。)。
7. 鑑定評価業者、前所有者及び施工会社の名称について

原則として、評価、取得、もしくは施工を行った時点での名称を記載しています。

銀座MTRビル

物件番号	A-2	物件名称	銀座MTRビル	
1. 不動産等資産の概要			4. 物件収支状況(千円)	
不動産の用途	オフィスビル		運用期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日 稼働日数 183日
所有形態	土地	所有権	(1)不動産賃貸事業収益	(注)
	建物	所有権		
土地	地番	東京都中央区銀座六丁目209番2他4筆		
	住居表示	東京都中央区銀座六丁目18番2号		
	地積	4,655.56㎡(他の共有者の共有持分を含みます。)	(2)不動産賃貸事業費用	(注)
	用途地域等	商業地域、防火地域、 特定都市再生緊急整備地域 (東京都心・臨海地域)		
建物	構造/階数	SRC・RC・S造陸屋根/地下5階付17階建	(3)NOI	508,525
	建築時期	昭和57年3月(平成22年大規模修繕実施)		
	延床面積	建物一棟：38,901.73㎡ 本投資法人の所有にかかる専有部分(一棟の建物の地下5階から地上17階にわたります。): 23,614.49㎡		
	駐車場台数	70台		
	施工会社	鹿島建設株式会社、大成建設株式会社		
2. 特定資産の概要			(4)不動産賃貸事業損益	447,878
特定資産の種類	不動産		(5)資本的支出	2,854
取得年月日	平成15年3月31日		(6)NCF	505,670
前所有者	森トラスト株式会社 森産業トラスト株式会社		5. 平成24年度公租公課(千円)	
取得価格	16,000百万円		固定資産税額	69,799
3. 取得時の不動産鑑定概要			都市計画税額	14,957
鑑定評価額	16,100百万円		合計	84,756
価格時点	平成15年1月31日			
鑑定評価業者	U F J 信託銀行株式会社			
6. 特記事項				
(1) 権利関係について 本件土地面積は、本件建物の敷地である土地全5筆の合計面積であり、他の共有者(新橋演舞場株式会社)の共有持分を含んでいます。当該土地全5筆のうち、4筆(合計面積367.69㎡)は本投資法人が単独で所有しており、1筆(面積4,287.87㎡、本投資法人の共有持分10,000分の6,570)は他の共有者と共有しています。また、本件建物は、区分所有建物であり、建物面積は区分所有建物の一棟の建物の延床面積を記載しています。なお、本投資法人が所有する専有部分の床面積は23,614.49㎡です。				
(2) 管理規約について 区分所有者間の管理規約により、区分所有者が共有する敷地及び共用部分について分割請求が禁止されており、また敷地権の登記はなされていませんが、専有部分と敷地利用権を分離処分することは禁止されています。なお、本投資法人が有する議決権の割合は、1,000分の682となっています。				
(3) 買取優先交渉権について 全区区分所有者2名(本投資法人及び新橋演舞場株式会社)、本件区分所有建物の前所有者である森トラスト株式会社において締結された「協定書」には、本投資法人が自己の所有にかかる専有部分及び敷地利用権を譲渡しようとする場合、当該協定書のこれら当事者が、第三者に優先して買取交渉権を有する旨定められています。				

(注)本件不動産の「不動産賃貸事業収益」及び「不動産賃貸事業費用」については、やむを得ない事情により開示していません。

三田MTビル

物件番号	A-3	物件名称	三田MTビル
1. 不動産等資産の概要		4. 物件収支状況(千円)	
不動産の用途	オフィスビル	運用期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日 稼働日数 183日
所有形態	土地 建物	(1)不動産賃貸事業収益 718,279	
土地	地番	東京都港区三田三丁目202番1	家賃 662,110
	住居表示	東京都港区三田三丁目13番12号	共益費 -
	地積	3,489.80㎡	土地賃貸収益 -
	用途地域等	商業地域、防火地域、 特定都市再生緊急整備地域 (品川駅・田町駅周辺地域)	その他賃貸事業収入 56,168
建物	構造/階数	SRC造陸屋根/地下1階付11階建 附属建物S造/平家建 他1棟	(2)不動産賃貸事業費用 196,324
	建築時期	昭和49年9月 (平成9年大規模修繕実施)	公租公課 42,208
	延床面積	21,043.02㎡ (附属建物72.70㎡を含みます。)	固定資産税 42,119
	駐車場台数	69台	その他公租公課 89
	施工会社	鹿島建設株式会社	諸経費 103,174
2. 特定資産の概要		管理業務費 49,849	水道光熱費 38,214
特定資産の種類	不動産	損害保険料 899	信託報酬 -
取得年月日	平成15年12月1日	その他費用 14,210	減価償却費 50,941
前所有者	森観光トラスト株式会社	(3)NOI 572,896	(4)不動産賃貸事業損益 521,954
取得価格	16,000百万円	(5)資本的支出 -	(6)NCF 572,896
3. 取得時の不動産鑑定概要		5. 平成24年度公租公課(千円)	
鑑定評価額	16,000百万円	固定資産税額	68,956
価格時点	平成15年9月11日	都市計画税額	14,776
鑑定評価業者	UFJ信託銀行株式会社	合計	83,733
6. 特記事項			
(1)買取優先交渉権について 本投資法人は、本件不動産の全部または一部の譲渡に関し、森トラスト株式会社に対し優先交渉権を付与しています。			
(2)越境物について 本件土地と北東側隣接地との境界部分について、本投資法人が所有する街灯、監視カメラ及び塀の一部が当該隣接地に対し越境しており、また、隣接地所有者等が所有する配電盤、塀の一部及び配管が本件土地に対し越境しています。これらの越境物について、「越境物に関する確認書」が締結されており、当該越境物の内容及び状態につき確認され、将来における越境の解消方法等に関し合意しています。			

丸紅大阪本社ビル

物件番号	A-4	物件名称	丸紅大阪本社ビル
1. 不動産等資産の概要		4. 物件収支状況(千円)	
不動産の用途	オフィスビル	運用期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日
所有形態	所有権		稼働日数 183日
土地	所有権	(1) 不動産賃貸事業収益	600,177
地番	大阪市中央区安土町二丁目26番 大阪市中央区本町二丁目3番1	家賃	600,177
住居表示	大阪市中央区本町二丁目5番7号	共益費	-
地積	5,878.72㎡	土地賃貸収益	-
用途地域等	商業地域、防火地域、 都市再生緊急整備地域 (大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域)	その他賃貸事業収入	-
建物	構造/階数	(2) 不動産賃貸事業費用	141,624
	S・SRC造陸屋根/地下3階建付19階建	公租公課	84,780
建築時期	昭和59年3月 (昭和61年2月増築)	固定資産税	84,780
延床面積	41,574.47㎡	その他公租公課	-
駐車場台数	123台	諸経費	11,255
施工会社	株式会社竹中工務店	管理業務費	-
		水道光熱費	-
		損害保険料	2,249
		信託報酬	-
		その他費用	9,006
		減価償却費	45,587
		(3) NOI	504,140
		(4) 不動産賃貸事業損益	458,553
		(5) 資本的支出	102,032
		(6) NCF	402,108
2. 特定資産の概要			
特定資産の種類	不動産	賃貸借契約形態	マスターリース契約(注)
取得年月日	平成14年9月30日	信託受益権の概要	
前所有者	丸紅株式会社	信託設定日	-
取得価格	12,500百万円	信託受託者	-
		信託期間満了日	-
3. 取得時の不動産鑑定概要		5. 平成24年度公租公課(千円)	
鑑定評価額	12,600百万円	固定資産税額	139,424
価格時点	平成14年6月1日	都市計画税額	29,876
鑑定評価業者	財団法人日本不動産研究所	合計	169,300
6. 特記事項			
(1) 船場建築線について 本件土地の東側及び北側道路は、「船場建築線」の指定を受けており、東側道路については道路中心線から5m後退した線、北側道路については道路中心線から6m後退した線が道路境界線とみなされています。また、「船場建築線」が交差する本件土地の北東角部分及び北西角部分においては、2.5mの隅切りを施さなければならない旨規定されています。当該後退部分及び隅切り部分の面積は、建ぺい率・容積率の計算上敷地面積には算入されません。			
(2) 買取優先交渉権について 本投資法人は、丸紅株式会社との定期建物賃貸借契約の期間中、本件不動産の一部または全部の買取に関し、丸紅株式会社に対し優先交渉権を付与していましたが、平成24年9月30日をもって本件賃貸借契約が終了したことに伴い、優先交渉権の行使期間も終了しました。			

(注) 本件マスターリース契約は平成24年9月30日をもって終了しました。なお、平成24年10月1日以降はテナントとの直接契約の形態になっています。

新横浜TECHビル

物件番号	A-5	物件名称	新横浜TECHビル
1. 不動産等資産の概要		4. 物件収支状況(千円)	
不動産の用途	オフィスビル	運用期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日
所有形態	所有権		稼働日数 183日
土地	所有権	(1)不動産賃貸事業収益	404,149
地番	横浜市港北区新横浜三丁目9番1他1筆	家賃	255,057
住居表示	A館：横浜市港北区新横浜三丁目9番18号 B館：横浜市港北区新横浜三丁目9番1号	共益費	83,367
地積	2,671.11㎡	土地賃貸収益	—
用途地域等	商業地域、防火地域	その他賃貸事業収入	65,724
建物	構造/階数	(2)不動産賃貸事業費用	234,769
	A館：SRC造陸屋根/地下1階付9階建 B館：S・SRC造陸屋根/地下1階付16階建	公租公課	30,091
建築時期	A館：昭和61年2月 B館：昭和63年2月	固定資産税	30,091
延床面積	A館 11,636.35㎡ B館 13,550.87㎡ 合計 25,187.22㎡	その他公租公課	—
駐車場台数	78台	諸経費	160,059
施工会社	鹿島建設株式会社、大成建設株式会社	管理業務費	67,188
		水道光熱費	61,817
		損害保険料	1,097
		信託報酬	—
		その他費用	29,955
		減価償却費	44,618
		(3)NOI	213,997
		(4)不動産賃貸事業損益	169,379
		(5)資本的支出	9,954
		(6)NCF	204,043
2. 特定資産の概要			
特定資産の種類	不動産	賃貸借契約形態	テナントとの直接契約
取得年月日	平成15年11月14日	信託受益権の概要	
前所有者	寺田倉庫株式会社 シティトラスト信託銀行株式会社	信託設定日	—
取得価格	6,900百万円	信託受託者	—
		信託期間満了日	—
3. 取得時の不動産鑑定の概要		5. 平成24年度公租公課(千円)	
鑑定評価額	6,980百万円	固定資産税額	47,484
価格時点	平成15年9月30日	都市計画税額	10,175
鑑定評価業者	日本土地建物株式会社	合計	57,659
6. 特記事項			
特記すべき事項はありません。			

大崎MTビル

物件番号	A-6	物件名称	大崎MTビル
1. 不動産等資産の概要		4. 物件収支状況(千円)	
不動産の用途	オフィスビル	運用期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日
所有形態	所有権		稼働日数 183日
土地	所有権	(1)不動産賃貸事業収益	437,856
土地	地番	東京都品川区北品川五丁目689番2他16筆	家賃 437,853
	住居表示	東京都品川区北品川五丁目9番11号	共益費 -
	地積	13,852.74㎡(他の共有者の共有持分を含みます。)	土地賃貸収益 -
	用途地域等	準工業地域、第一種低層住居専用地域、防火地域、準防火地域	その他賃貸事業収入 3
建物	構造/階数	S・SRC造陸屋根/地下3階付14階建	(2)不動産賃貸事業費用 100,400
	建築時期	平成6年7月 (平成20年大規模修繕実施)	公租公課 34,116
	延床面積	26,980.68㎡ 本投資法人の共有持分(1,000,000分の838,899) を乗じた面積:22,634.06㎡	固定資産税 34,116
	駐車場台数	65台	その他公租公課 -
	施工会社	株式会社大林組	諸経費 9,004
			管理業務費 3,360
			水道光熱費 -
			損害保険料 902
			信託報酬 -
			その他費用 4,741
			減価償却費 57,279
			(3)NOI 394,735
			(4)不動産賃貸事業損益 337,455
			(5)資本的支出 5,962
			(6)NCF 388,773
2. 特定資産の概要			
特定資産の種類	不動産	賃貸借契約形態	マスターリース契約(注2)
取得年月日	①平成17年3月31日 ②平成17年10月28日	信託受益権の概要	
前所有者	①森トラスト株式会社 ②三菱UFJ信託銀行株式会社	信託設定日	-
取得価格	①7,870百万円 ②5,656百万円	信託受託者	-
		信託期間満了日	-
3. 取得時の不動産鑑定概要		5. 平成24年度公租公課(千円)	
鑑定評価額	①7,870百万円 ②5,030百万円	固定資産税額	55,381
価格時点	①平成17年3月31日 ②平成17年8月31日	都市計画税額	11,867
鑑定評価業者	①、②日本土地建物株式会社	合計	67,248
6. 特記事項			
(1)本件土地の権利関係について 本件土地面積は、本投資法人が所有し、または共有する土地全17筆の合計面積であり、他の共有者の共有持分を含んでいます。 当該土地全17筆のうち、①10筆(合計面積1,807.12㎡)は本投資法人が単独で所有しており、②3筆(合計面積1,073.67㎡、本投資法人の共有持分1,081,560分の710,234)、③1筆(面積121.28㎡、本投資法人の共有持分5分の1)及び④3筆(合計面積10,850.67㎡、本投資法人の共有持分1,000,000分の159,861)は他の共有者と共有しています。なお、④における本投資法人以外の共有持分1,000,000分の840,139は、後記「ONビル 6. 特記事項」のとおり本投資法人を唯一の信託受益者とする信託受託者(以下本表において「ONビル受託者」といいます。)が所有しています。			
(2)本件建物の権利関係について 本件建物は、共有建物であり、建物面積に本投資法人の共有持分(1,000,000分の838,899)を乗じた面積は22,634.06㎡です。			
(3)敷地利用権について 本件建物は、複数の事業者が各別に所有していた複数筆の土地(全体を「大崎ビジネスガーデン」といいます。)上に、本件建物を含む2棟の建物(他方の建物は、後記「ONビル」です。)を建設する共同開発事業の一環として建設されたものです。 2棟の建物の各所有者(共有者を含みます。)は、大崎ビジネスガーデンを構成する各土地の所有者から、各土地について使用借権または賃借権(存続期間は、本件建物の竣工後40年とされています。)の設定を受け、各建物を所有しています。従って、本投資法人は、2棟の建物の他の所有者(共有者を含みます。)が各建物を所有するために、本件土地のうち本投資法人が保有する持分を使用させる義務を負っています。一方で、本投資法人が本件建物を所有するため有する敷地利用権は①本件土地のうち本投資法人の保有する持分との関係ではその所有権(共有持分を含みます。)となり、②大崎MTビルにかかる他の共有者またはONビル受託者が保有する大崎ビジネスガーデンの土地持分に対しては、上記使用借権または賃借権となります。			
(4)境界確認について 本件土地と隣接土地との境界に一部未確定の部分が存在します。			
(5)越境物について 本件土地と隣接土地との境界部分について、本件不動産の塀が一部隣接土地に対し越境しており、また、当該隣接土地の樹木の枝葉等が本件土地に対し越境している可能性があります。			

(6) 買取優先交渉権について

本投資法人は他の共有者との間で、本件不動産の全部または一部の買取に関し、相互に優先交渉権を付与する協定を承継しています。また、当該各共有者において、本件不動産の買取にかかる優先交渉権を行使しないことが確認された場合には、本投資法人は、森トラスト株式会社に対して、優先交渉権を付与します。

(7) 分離処分禁止について

大崎ビジネスガーデンを構成する各所有者との間で、本件建物の共有持分と当該共有持分の同一の所有者が所有する土地を分離して譲渡することは禁止されています。

(注1) 本投資法人は、平成17年3月31日の取得において、土地の所有権(土地全14筆のうち本投資法人が単独で所有する10筆(合計面積1,807.12

m²)、他の共有者と共有する3筆(合計面積1,073.67m²、本投資法人の共有持分1,081,560分の710,234)及び1筆(面積121.28m²、本投資法人の共有持分5分の1)と建物の所有権(本投資法人の共有持分1,000,000分の590,950)を取得しています。また、平成17年10月28日の取得において、土地の所有権(他の共有者と共有する土地3筆(合計面積10,850.67m²、本投資法人の共有持分1,000,000分の159,861))と建物の所有権(本投資法人の共有持分1,000,000分の247,949)を取得しています。

(注2) 大崎MTビルは、賃料収入がサブリース契約の賃料に連動する仕組みのマスターリース契約を採用しています。

ONビル

物件番号	A-8	物件名称	ONビル
1. 不動産等資産の概要			4. 物件収支状況(千円)
不動産の用途	オフィスビル		運用期間
所有形態	土地	所有権	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日
土地	建物	所有権	(1)不動産賃貸事業収益
	地番	東京都品川区北品川五丁目746番1他2筆	
	住居表示	東京都品川区北品川五丁目9番12号	
	地積	10,850.67㎡(他の共有者の共有持分を含みます。)	
建物	用途地域等	準工業地域、第一種低層住居専用地域、防火地域、準防火地域	(2)不動産賃貸事業費用
	構造/階数	S・SRC造陸屋根/地下2階付21階建	(注)
	建築時期	平成2年11月	
	延床面積	32,812.27㎡	
	駐車場台数	79台	
施工会社	株式会社大林組		
2. 特定資産の概要			(3)NOI
特定資産の種類	不動産信託受益権	賃貸借契約形態	テナントとの直接契約
取得年月日	平成20年8月29日	信託受益権の概要	平成13年2月9日 三菱UFJ信託銀行株式会社 平成32年10月末日
前所有者	有限会社エスアイエイキング2号	信託設定日	
取得価格	39,900百万円	信託受託者	
3. 取得時の不動産鑑定概要			信託期間満了日
鑑定評価額	41,000百万円	5. 平成24年度公租公課(千円)	
価格時点	平成20年8月1日	固定資産税額	86,253
鑑定評価業者	財団法人日本不動産研究所	都市計画税額	18,482
6. 特記事項			合計
(1)権利関係について			104,736
<p>本件土地面積は全3筆の合計面積であり、本投資法人を唯一の信託受益者とする信託受託者(以下本表において「本件受託者」といいます。)が1,000,000分の840,139の共有持分を保有しています。なお、当該3筆についての本件受託者保有分以外の共有持分は、本投資法人が保有しています。</p>			
(2)敷地利用権について			
<p>本件信託建物は、複数の事業者が各別に所有していた複数筆の土地(全体を「大崎ビジネスガーデン」といいます。)上に、本件信託建物を含む2棟の建物(他方の建物は、前記「大崎MTビル」です。)を建設する共同開発事業の一環として建設されたものであり、2棟の建物の各所有者(共有者を含みます。)は、大崎ビジネスガーデンを構成する各土地所有者から、各土地についての使用借権または賃借権の設定を受け、各建物を所有しています。従って、本件受託者が本件信託建物を所有するための敷地利用権は、①本件土地のうち本件受託者の保有する共有持分との関係では、当該共有持分となり、②本件土地のうち本投資法人の保有する共有持分及び③本件土地以外の大崎ビジネスガーデン対象土地との関係では、それぞれの土地に設定された使用借権または賃借権となります。また、本件受託者は、隣接する大崎MTビルの各共有者が大崎MTビルの各共有持分を所有するために、本件信託土地を使用させる義務を負っています。</p>			
(3)境界確認について			
<p>本件土地と隣接土地との境界に一部未確定の部分が存在します。</p>			
(4)越境物について			
<p>本件土地と隣接土地との境界部分について、本件不動産の塀が一部隣接土地に対し越境しており、また、当該隣接土地の樹木の枝葉等が本件土地に対し越境している可能性があります。</p>			
(5)工作物について			
<p>本件土地に設置された工作物のうち一部の擁壁は、完了検査を受けておらず検査済証が交付されていません。本投資法人は、国土交通大臣等が指定する検査機関である日本ERI株式会社による建築基準法適合判定調査を実施し、調査の結果、当該工作物は建築基準法との適合性が確保されており、構造上の安全性について支障がないと考えられるとの報告を得ています。</p>			

(注)本件信託不動産の「不動産賃貸事業収益」及び「不動産賃貸事業費用」については、やむを得ない事情により開示していません。

東京汐留ビルディング

物件番号	A-9	物件名称	東京汐留ビルディング			
1. 不動産等資産の概要			4. 物件収支状況(千円)			
不動産の用途		オフィスビル・ホテル・商業施設		運用期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	稼働日数 183日
所有 形態	土地	所有権		(1)不動産賃貸事業収益		2,795,000
	建物	所有権		家賃		2,795,000
土地	地番(注)	東京都港区東新橋一丁目5-48、5-69、5-70、5-79のうち街区番号4街区保留地符号4-1		共益費		-
	住居表示	東京都港区東新橋一丁目9番1号		土地賃貸収益		-
	地積(注)	17,847㎡(保留地譲受権の他の準共有者の準共有持分を含みます。)		その他賃貸事業収入		-
	用途地域等	商業地域、防火地域、特定都市再生緊急整備地域(東京都心・臨海地域)		(2)不動産賃貸事業費用		926,156
建物	構造/階数	SRC・RC・S造陸屋根/地下4階付37階建		公租公課		366,671
	建築時期	平成17年1月		固定資産税		366,671
	延床面積	191,394.06㎡ 本投資法人の共有持分(100分の50)を乗じた面積： 95,697.03㎡		その他公租公課		-
	駐車場台数	437台		諸経費		5,241
	施工会社	株式会社竹中工務店		管理業務費		-
				水道光熱費		-
				損害保険料		4,690
				信託報酬		-
				その他費用		551
				減価償却費		554,242
				(3)NOI		2,423,086
				(4)不動産賃貸事業損益		1,868,843
				(5)資本的支出		378
				(6)NCF		2,422,708
2. 特定資産の概要						
特定資産の種類		不動産		賃貸借契約形態	マスターリース契約	
取得年月日		平成22年4月13日		信託受益権の概要		
前所有者		森トラスト株式会社		信託設定日	-	
取得価格		110,000百万円		信託受託者	-	
				信託期間満了日	-	
3. 取得時の不動産鑑定概要			5. 平成24年度公租公課(千円)			
鑑定評価額		111,500百万円		固定資産税額		594,870
価格時点		平成22年3月31日		都市計画税額		127,472
鑑定評価業者		株式会社立地評価研究所		合計		722,342
6. 特記事項						
(1)本件土地について						
<p>本件土地は、東京都の実施する東京都市計画事業汐留土地区画整理事業において土地区画整理法第96条第1項に規定される保留地となることが予定されている土地です。本投資法人が保有しているのは、東京都に対する当該土地の停止条件付所有権移転請求権であり、本投資法人は、前記土地区画整理事業にかかる換地処分がなされたときに、かかる換地処分の公告があった日の翌日において、当該土地の所有権(共有持分100分の50)を取得します。また、本投資法人は、当該土地の所有権を取得するまでの間の当該土地の使用収益権(上記当該土地の停止条件付所有権移転請求権と併せて、本表において以下「保留地譲受権」といいます。)を有しています。なお、本投資法人は、換地処分の公告の日の翌日以降に当該土地の所有権移転登記を行うことを予定しています。なお、換地処分公告日は平成27年度中になる見込みです。</p>						
(2)敷地利用権について						
<p>本件土地の利用については、森トラスト株式会社、本件土地の保留地譲受権の他の準共有者及び本件建物の他の共有者間の運営に関する確認書で、森トラスト株式会社及び本件建物の他の共有者が本件土地上に本件建物を所有することの合意がなされている旨が確認されています。本投資法人は、上記運営に関する確認書上の森トラスト株式会社の権利、義務及び契約上の地位を承継しています。</p>						
(3)本件土地面積の増減にかかる精算について						
<p>本件土地は、保留地予定地であるため、換地処分の公告の日の翌日に面積が確定するものであり、上記の面積が増減する可能性があります。本件土地の面積が増減があった場合は、換地処分の公告の日の翌日以降に東京都との間で精算が行われます。</p>						
(4)本件土地の権利関係について						
<p>本件土地面積は、本投資法人が準共有する保留地譲受権の対象となる土地の面積であり、他の準共有者の準共有持分にかかる部分を含んでいます。当該土地にかかる権利のうち、本投資法人の準共有持分は100分の50です。</p>						
(5)本件土地にかかる保留地譲受権の譲渡制限等について						
<p>本投資法人及び本件土地の保留地譲受権の他の準共有者が、本件土地の所有権を取得し、登記を完了するまでの間は、本件土地について、売買、贈与、交換、出資等による停止条件付所有権移転請求権もしくは所有権の移転をし、または地上権、質権、使用貸借による権利もしくは賃貸借その他の使用及び収益を目的とする権利の設定もしくは変更をするには、東京都の承認が必要となります。</p>						
(6)本件建物の権利関係について						
<p>本件建物は、共有建物であり、延床面積に本投資法人の共有持分(100分の50)を乗じた面積は95,697.03㎡です。</p>						
(7)買取優先交渉権について						
<p>本投資法人は、本件土地(保留地譲受権も含みます。)及び本件建物の全部または一部の譲渡に関し、森トラスト株式会社に対し優先交渉権を付与しています。</p>						

(注)本件土地は、保留地となることが予定されている土地であるため、「地番」及び「地積」には、東京都作成の保留地台帳記載事項証明書に基づく所在及び面積を記載しています。

天神プライム

物件番号	A-10	物件名称	天神プライム	
1. 不動産等資産の概要			4. 物件収支状況(千円)	
不動産の用途	オフィスビル		運用期間	自 平成24年7月12日 至 平成24年9月30日 稼働日数 81日
所有形態	土地	所有権	(1) 不動産賃貸事業収益	
	建物	所有権		
土地	地番	福岡市中央区天神二丁目138番他6筆	家賃	103,296
	住居表示	福岡市中央区天神二丁目7番21号	共益費	12,544
	地積	1,110.73㎡(借地部分を含みます。)	土地賃貸収益	—
	用途地域等	商業地域、防火地域、 特定都市再生緊急整備地域 (福岡都心地域)	その他賃貸事業収入	8,548
建物	構造/階数	S・RC造陸屋根/地下1階付12階建	(2) 不動産賃貸事業費用	
	建築時期	平成20年3月(平成20年10月増築)	公租公課	—
	延床面積	7,722.04㎡	固定資産税	—
	駐車場台数	21台(隔地駐車場18台を含みます。)	その他公租公課	—
	施工会社	株式会社大林組	諸経費	17,670
			管理業務費	3,682
2. 特定資産の概要			水道光熱費	6,039
特定資産の種類	不動産信託受益権	賃貸借契約形態	損害保険料	152
取得年月日	平成24年7月12日	マスターリース契約(注)	信託報酬	3,332
前所有者	カモミール・リアルティ合同会社	信託設定日	その他費用	4,463
取得価格	6,940百万円	信託受託者	減価償却費	13,802
3. 取得時の不動産鑑定概要			信託期間満了日	106,718
鑑定評価額	7,320百万円	5. 平成24年度公租公課(千円)		
価格時点	平成24年6月1日	固定資産税額	34,064	
鑑定評価業者	一般財団法人日本不動産研究所	都市計画税額	7,299	
6. 特記事項			合計	41,363
(1) 本件土地の権利関係について				
<p>本件土地面積は、本件信託建物の敷地である土地全7筆の合計面積であり、その一部に借地を含んでいます。当該土地全7筆のうち、6筆(合計面積1,081.75㎡)は本投資法人を唯一の信託受益者とする信託受託者が単独で所有しており、1筆(面積28.98㎡)は本投資法人を唯一の信託受益者とする信託受託者が土地賃借権を有しています。</p>				
(2) 越境物について				
<p>隣接建物の一部及び工作物等が本件土地に越境していますが、これらの越境物について、越境物に関する「合意書」が締結されており、当該越境物の内容及び状態につき確認され、将来における越境の解消方法等に関し合意しています。</p>				
(注) 本投資法人が信託受託者との間で締結したマスターリース契約に基づき本件信託土地及び本件信託建物を借り受けたうえで、本投資法人から各テナントに対してサブリースをする仕組みを採用しています。				

イトーヨーカドー湘南台店

物件番号	B-1	物件名称	イトーヨーカドー湘南台店		
1. 不動産等資産の概要			4. 物件収支状況(千円)		
不動産の用途		商業施設	運用期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	稼働日数 183日
所有形態	土地	所有権	(1)不動産賃貸事業収益		395,045
	建物	所有権	家賃		395,000
土地	地番	神奈川県藤沢市石川六丁目2番1	共益費		-
	住居表示	神奈川県藤沢市石川六丁目2番地の1	土地賃貸収益		-
	地積	35,209.93㎡	その他賃貸事業収入		45
	用途地域等	第一種住居地域、第二種住居地域、準防火地域	(2)不動産賃貸事業費用		130,884
建物	構造/階数	S造陸屋根/5階建 附属建物RC造陸屋根/地下1階付1階建	公租公課		40,385
	建築時期	平成14年11月	固定資産税		40,385
	延床面積	53,393.66㎡ (附属建物54.88㎡を含みます。)	その他公租公課		-
	駐車場台数	1,460台	諸経費		8,010
	施工会社	株式会社銭高組	管理業務費		1,800
			水道光熱費		-
			損害保険料		1,332
			信託報酬		-
			その他費用		4,877
			減価償却費		82,488
			(3)NOI		346,649
			(4)不動産賃貸事業損益		264,161
			(5)資本的支出		378
			(6)NCF		346,271
2. 特定資産の概要					
特定資産の種類		不動産	賃貸借契約形態	マスターリース契約	
取得年月日	平成15年3月28日		信託受益権の概要		
前所有者	森インベストメント・トラスト株式会社		信託設定日	-	
取得価格	11,600百万円		信託受託者	-	
			信託期間満了日	-	
3. 取得時の不動産鑑定概要			5. 平成24年度公租公課(千円)		
鑑定評価額	11,600百万円		固定資産税額	66,957	
価格時点	平成15年3月1日		都市計画税額	11,956	
鑑定評価業者	財団法人日本不動産研究所		合計	78,914	
6. 特記事項					
(1)架設送電線路について 本件土地の上空には、「架設送電線路に関する契約書」に基づき、東京電力株式会社の送電線路が架設されており、本件土地において、当該架設送電線路に支障を来すような行為が禁止されています。					
(2)藤沢市緑化協定について 本件建物の建設に際し、藤沢市との間で締結した「緑化協定書」に基づき、本件土地の一定面積を緑地として確保しています。					
(3)本件建物と本件敷地の分離処分等の禁止について 株式会社イトーヨーカ堂との建物賃貸借契約期間中においては、本件建物と本件土地の分離または本件土地の分割処分が禁止されています。					
(4)買取優先交渉権について 本投資法人は、株式会社イトーヨーカ堂との建物賃貸借契約期間中において、本件不動産の買取に関し、株式会社イトーヨーカ堂に対し優先交渉権を付与しています。					

フレスポ稲毛

物件番号	B-2	物件名称	フレスポ稲毛
1. 不動産等資産の概要		4. 物件収支状況(千円)	
不動産の用途	商業施設用地	運用期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日
所有形態	所有権		稼働日数 183日
土地	地番 千葉市稲毛区長沼原町731番17	(1) 不動産賃貸事業収益	123,745
	住居表示 -	家賃	-
	地積 39,556.71㎡	共益費	-
	用途地域等 工業地域	土地賃貸収益	123,745
		その他賃貸事業収入	-
建物	構造/階数 -	(2) 不動産賃貸事業費用	10,653
	建築時期 -	公租公課	9,653
	延床面積 -	固定資産税	9,653
	駐車場台数 -	その他公租公課	-
	施工会社 -	諸経費	1,000
		管理業務費	-
		水道光熱費	-
		損害保険料	-
		信託報酬	1,000
		その他費用	-
		減価償却費	-
		(3) NOI	113,091
		(4) 不動産賃貸事業損益	113,091
		(5) 資本的支出	-
		(6) NCF	113,091
2. 特定資産の概要			
特定資産の種類	不動産信託受益権	賃貸借契約形態	テナントとの直接契約
取得年月日	平成14年3月28日	信託受益権の概要	
前所有者	住友重機械工業株式会社	信託設定日	平成14年3月28日
取得価格(注)	2,100百万円	信託受託者	三井住友信託銀行株式会社
		信託期間満了日	平成34年3月31日
3. 取得時の不動産鑑定概要		5. 平成24年度公租公課(千円)	
鑑定評価額(注)	2,500百万円	固定資産税額	23,947
価格時点	平成14年3月1日	都市計画税額	5,131
鑑定評価業者	財団法人日本不動産研究所	合計	29,079
6. 特記事項			
(1) 通行地役権の設定について 本件信託土地に関し、本件信託土地及び本件信託土地の東側隣接地を要役地、当該要役地に隣接する土地の一部を承役地とする「通行地役権設定契約書」が信託受託者と承役地所有者である住友重機械工業株式会社との間で締結されており、かかる地役権の登記がなされています。			
(2) 土壌浄化対策工事について 前所有者が、平成14年1月から同年3月にかけて実施した本件信託土地に関する概況調査及び詳細調査の結果、本件信託土地の一部において、フッ素の環境基準の超過及び鉛の含有参考値の超過が明らかとなりました。この調査結果に基づき、前所有者において平成14年7月から同年8月にかけて、土壌浄化対策工事が行われました。当該対策工事完了後、本投資法人において実施した環境評価調査において、当該対策工事は適正に行われていることを確認しています。			
(3) 買取優先交渉権について 本件信託土地の譲渡に関しては、本件信託土地の賃借人である大和リース株式会社が優先交渉権を有しています。なお、特定資産たる不動産信託受益権の譲渡については、第三者のための優先交渉権の設定はなされていません。			

(注) 取得価格及び鑑定評価額については、平成24年2月29日に本件信託土地の50%を譲渡したため、本件信託不動産全体の取得価格である4,200百万円及び取得時の鑑定評価額である5,000百万円の50%に相当する価格及び価額を記載しています。

イトーヨーカドー新浦安店

物件番号	B-3	物件名称	イトーヨーカドー新浦安店	
1. 不動産等資産の概要			4. 物件収支状況(千円)	
不動産の用途	商業施設		運用期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日
所有形態	土地	所有権		稼働日数 183日
	建物	所有権	(1)不動産賃貸事業収益	378,165
土地	地番	千葉県浦安市明海四丁目1番1他2筆	家賃	378,165
	住居表示	千葉県浦安市明海四丁目1番1号	共益費	-
	地積	33,537.07㎡	土地賃貸収益	-
	用途地域等	近隣商業地域、準防火地域	その他賃貸事業収入	-
建物	構造/階数	S造陸屋根/5階建	(2)不動産賃貸事業費用	145,082
	建築時期	平成12年9月	公租公課	43,781
	延床面積	57,621.38㎡	固定資産税	43,781
	駐車場台数	1,280台	その他公租公課	-
	施工会社	株式会社竹中工務店	諸経費	29,332
			管理業務費	1,800
			水道光熱費	-
			損害保険料	3,244
			信託報酬	-
			その他費用	24,287
			減価償却費	71,968
			(3)NOI	305,051
			(4)不動産賃貸事業損益	233,082
			(5)資本的支出	15,137
			(6)NCF	289,913
2. 特定資産の概要				
特定資産の種類	不動産		賃貸借契約形態	マスターリース契約
取得年月日	平成16年7月30日		信託受益権の概要	
前所有者	株式会社イトーヨーカ堂		信託設定日	-
取得価格	12,150百万円		信託受託者	-
			信託期間満了日	-
3. 取得時の不動産鑑定概要			5. 平成24年度公租公課(千円)	
鑑定評価額	12,500百万円		固定資産税額	67,174
価格時点	平成16年7月30日		都市計画税額	-
鑑定評価業者	日本土地建物株式会社		合計	67,174
6. 特記事項				
特記すべき事項はありません。				

新橋駅前MTRビル

物件番号	B-4	物件名称	新橋駅前MTRビル
1. 不動産等資産の概要		4. 物件収支状況(千円)	
不動産の用途	商業施設	運用期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日
所有形態	所有権		稼働日数 183日
土地	地番	(1) 不動産賃貸事業収益	459,000
	住居表示	家賃	459,000
	地積	共益費	—
	用途地域等	土地賃貸収益	—
		その他賃貸事業収入	—
建物	構造/階数	(2) 不動産賃貸事業費用	72,571
	建築時期	公租公課	30,018
	延床面積	固定資産税	30,018
	駐車場台数	その他公租公課	—
	施工会社	諸経費	1,475
		管理業務費	1,200
		水道光熱費	—
		損害保険料	275
		信託報酬	—
		その他費用	—
		減価償却費	41,076
		(3) NOI	427,505
		(4) 不動産賃貸事業損益	386,428
		(5) 資本的支出	—
		(6) NCF	427,505
2. 特定資産の概要			
特定資産の種類	不動産	賃貸借契約形態	テナントとの直接契約
取得年月日	平成19年4月25日	信託受益権の概要	
前所有者	株式会社森トラスト・ホールディングス	信託設定日	—
取得価格	18,000百万円	信託受託者	—
		信託期間満了日	—
3. 取得時の不動産鑑定概要		5. 平成24年度公租公課(千円)	
鑑定評価額	18,200百万円	固定資産税額	49,225
価格時点	平成19年3月1日	都市計画税額	10,548
鑑定評価業者	日本土地建物株式会社	合計	59,774
6. 特記事項			
(1) 買取優先交渉権について 本投資法人は、本件不動産の全部または一部の買取に関し、株式会社森トラスト・ホールディングスまたは株式会社森トラスト・ホールディングスが指定する者に対して、優先交渉権を付与しています。			
(2) 越境物について 隣接建物の工作物及びダクト等が本件土地に越境しています。また、本件不動産の帰属物が一部隣接土地に越境しています。これらの越境物について、「越境物に関する確認書」が締結されており、当該越境物の内容及び状態につき確認され、将来における越境の解消方法等に関し合意しています。			

パークレーンプラザ

物件番号	C-1	物件名称	パークレーンプラザ	
1. 不動産等資産の概要			4. 物件収支状況(千円)	
不動産の用途	住宅		運用期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日
所有形態	土地	所有権		稼働日数 183日
	建物	所有権	(1)不動産賃貸事業収益	101,764
土地	地番	東京都渋谷区神宮前二丁目30番6	家賃	91,924
	住居表示	東京都渋谷区神宮前二丁目30番32号	共益費	9,043
	地積	1,702.95㎡	土地賃貸収益	—
	用途地域等	第二種中高層住居専用地域、第二種住居地域、防火地域、準防火地域	その他賃貸事業収入	796
建物	構造/階数	RC造陸屋根/地下1階付7階建	(2)不動産賃貸事業費用	33,190
	建築時期	昭和63年6月	公租公課	6,751
	延床面積	5,246.78㎡ (規約共用部分の物置2棟を含みます。)	固定資産税	6,751
	駐車場台数	21台	その他公租公課	—
	施工会社	株式会社竹中工務店	諸経費	13,654
			管理業務費	8,798
			水道光熱費	2,803
			損害保険料	212
			信託報酬	—
			その他費用	1,840
			減価償却費	12,784
2. 特定資産の概要			(3)NOI	81,358
特定資産の種類	不動産		(4)不動産賃貸事業損益	68,573
取得年月日	平成16年12月24日		(5)資本的支出	2,475
前所有者	日本紙バルブ商事株式会社		(6)NCF	78,883
取得価格	3,200百万円			
3. 取得時の不動産鑑定概要			5. 平成24年度公租公課(千円)	
鑑定評価額	3,260百万円		固定資産税額	10,961
価格時点	平成16年12月24日		都市計画税額	2,359
鑑定評価業者	日本土地建物株式会社		合計	13,321
6. 特記事項				
(1)境界確認について 本件土地と隣接土地との境界に一部未確定の部分が存在します。				
(2)越境物について 本件土地と隣接土地との境界部分について、当該隣接土地の塀、樹木の枝葉等が一部本件土地に対し越境しており、また、本件不動産の帰属物が一部隣接土地に対し越境しています。				
(3)権利関係について 本件建物は区分所有建物となっていますが、本投資法人が全ての区分所有権を単独で所有しています。				

ホテルオークラ神戸

物件番号	C-2	物件名称	ホテルオークラ神戸	
1. 不動産等資産の概要			4. 物件収支状況(千円)	
不動産の用途	ホテル		運用期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日 稼働日数 183日
所有形態	土地	所有権	(1)不動産賃貸事業収益 639,165	
	建物	所有権		
土地	地番	神戸市中央区波止場町48番1他1筆	家賃	639,165
	住居表示	神戸市中央区波止場町2番1号	共益費	-
	地積	30,944.44㎡	土地賃貸収益	-
	用途地域等	準工業地域、準防火地域、臨港地区	その他賃貸事業収入	-
建物	構造/階数	SRC・S造陸屋根/地下2階付35階建 附属建物SRC造陸屋根/7階建 他6棟	(2)不動産賃貸事業費用	306,878
	建築時期	平成元年3月 (平成7年3月増築)	公租公課	95,008
	延床面積	72,246.86㎡ (附属建物8,405.80㎡を含みます。)	固定資産税	95,008
	駐車場台数	429台	その他公租公課	-
	施工会社	鹿島建設株式会社、大成建設株式会社 株式会社大林組、野村建設工業株式会社	諸経費	24,723
		管理業務費	-	
		水道光熱費	-	
		損害保険料	12,573	
		信託報酬	2,000	
		その他費用	10,150	
		減価償却費	187,146	
2. 特定資産の概要			(3)NOI	519,433
特定資産の種類	不動産信託受益権		(4)不動産賃貸事業損益	332,286
取得年月日	平成18年9月20日		(5)資本的支出	57,441
前所有者	ラムダ・プロパティーズ・ジャパン・インク		(6)NCF	461,992
取得価格	19,000百万円		貸借契約形態	
3. 取得時の不動産鑑定概要			テナントとの直接契約	
鑑定評価額	18,600百万円		信託受益権の概要	
価格時点	平成18年8月29日		信託設定日	平成14年4月25日
鑑定評価業者	株式会社立地評価研究所		信託受託者	三菱UFJ信託銀行株式会社
6. 特記事項			信託期間満了日	平成34年3月31日
(1)買取優先交渉権について			5. 平成24年度公租公課(千円)	
本投資法人は、本件信託受益権または本件信託不動産の買取に関し、株式会社ホテルオークラ神戸及び株式会社ホテルオークラに対し、優先交渉権を付与しています。			固定資産税額	155,440
(2)越境物について			都市計画税額	33,308
隣接土地の樹木の枝葉等が一部本件信託土地に越境しており、また、本件信託不動産の附属物(樹木の枝葉等を含みます。)が一部隣接土地に越境しています。			合計	188,749

④ ポートフォリオ全体にかかる情報

(i) 建物地震リスク調査レポートについて

平成24年9月30日現在において、本投資法人が保有する不動産等資産について、株式会社竹中工務店より以下の概要の建物地震リスク調査レポートを取得しています。

地震ポートフォリオ解析による予想最大損失率(PML)

名称	PML(注1)	再調達価格(千円)	レポート日付
銀座MTRビル(注2)	8.1%	6,768,000	平成15年11月14日
三田MTビル	10.5%	4,929,000	平成15年7月7日
丸紅大阪本社ビル	3.4%	12,998,000	平成15年11月14日
新横浜TECHビル	8.7%	6,527,000	平成15年9月24日
大崎MTビル(注3)	11.5%	5,929,000	平成17年3月7日
ONビル	8.0%	10,455,300	平成20年8月21日
東京汐留ビルディング(注4)	6.0%	27,558,950	平成22年3月23日
天神プライム	6.4%	1,581,600	平成24年6月14日
イトーヨーカドー湘南台店	14.0%	6,956,000	平成15年11月14日
フレスポ稲毛	—	—	—
イトーヨーカドー新浦安店	18.9%	6,413,000	平成16年5月20日
新橋駅前MTRビル	12.2%	1,384,325	平成19年2月28日
パークレーンプラザ	14.9%	1,258,000	平成16年11月18日
ホテルオークラ神戸	17.8%	16,882,445	平成18年8月29日
ポートフォリオPML(注5)	4.2%	109,640,620	平成24年6月26日

(注1)「PML(Probable Maximum Loss)」とは、地震による予想最大損失率をいいます。PMLには個々の建築物に関するものと、ポートフォリオに関するものがあります。PMLについての統一的な定義はありませんが、本書においては、PMLとは50年間に10%の超過確率(=再現期間475年)で発生する大きさの地震が1回発生した場合に、その建物に生ずる損失コストの90%信頼値としての予想最大損失率(被災前の状態に復旧する補修工事費の、総建替工事費(再調達価格)に対する割合)をいいます。また、ポートフォリオに関するPMLとは、複数の建築物をまとめて1つの建築物群としたとき、被害の相関性を考慮して、建築物群の中の1ないし複数の建築物に影響を与えるような50年間に10%の超過確率(=再現期間475年)で発生する地震(シナリオ地震)を想定し、それらの地震が1回発生した場合の、建築物群全体に生ずる損失コストの90%信頼値としての予想最大損失率の最大値(個々の地震によって生じた建築物群の補修工事費合計の、建築物群の総建替工事費(再調達価格)合計に対する割合の最大値)をいいます。PMLについては、その算定において考慮される地震危険度は一定のものではなく、地震学等の知見の進歩によって地震のモデル等が変更された場合、その値が変化することがあります。なお、フレスポ稲毛については、本投資法人が保有する不動産等資産が本件信託土地にかかる信託受益権のみであるため、建物地震リスク調査の対象にはなりません。また、イトーヨーカドー新浦安店及びホテルオークラ神戸については、かかるPML値が本投資法人における投資基準(単体PML値15%未満)を超過しているため、地震保険を付保しています。

(注2)銀座MTRビルは、区分所有建物であり、本投資法人の持分相当に対する再調達価格を記載しています。

(注3)大崎MTビルは、共有建物であり、本投資法人の持分相当(1,000,000分の838,899)に対する再調達価格を記載しています。

(注4)東京汐留ビルディングは、共有建物であり、本投資法人の持分相当(100分の50)に対する再調達価格を記載しています。

(注5)本投資法人のポートフォリオPML値は、複数の想定シナリオ地震のうち、東京都港区付近を震源として発生する地震を想定して算定されています。

(ii) 建物状況調査レポートにおける修繕費用について

本投資法人は保有する不動産等資産について、調査会社により作成された建物状況調査レポートを取得しています。当該レポートにおいては、調査後12年間に必要と考えられる修繕及び更新工事、それらに要する修繕費用(概算)が報告されています。下記「建物状況調査レポートにおける修繕費用」には、その調査会社及び当該レポートに基づく修繕費用の年平均額を記載しています。但し、当該レポートについては、その内容を保証するものではなく、意見に過ぎません。

また、修繕費用は不動産等資産の維持保全に必要な費用ですが、その一部についてはテナントとの契約においてテナント負担となっているものもあり、本投資法人が全てを負担するものではありません。

建物状況調査レポートにおける修繕費用

名称	レポート日付	調査会社	修繕費用 (年平均額)(注1)
銀座MTRビル(注2)	平成22年3月29日	株式会社安井建築設計事務所	143,516千円/年
三田MTビル	平成23年9月30日	株式会社安井建築設計事務所	26,020千円/年
丸紅大阪本社ビル	平成23年9月30日	株式会社安井建築設計事務所	171,440千円/年
新横浜TECHビル	平成23年9月30日	株式会社安井建築設計事務所	126,293千円/年
大崎MTビル(注3)	平成22年4月6日	株式会社安井建築設計事務所	66,265千円/年
ONビル	平成20年8月21日	株式会社竹中工務店	227,411千円/年
東京汐留ビルディング(注4)	平成22年4月	東京海上日動リスクコンサルティング株式会社	121,656千円/年
天神プライム	平成24年6月14日	株式会社竹中工務店	13,897千円/年
イトーヨーカドー湘南台店	平成23年9月30日	株式会社安井建築設計事務所	71,997千円/年
フレスポ稲毛(注5)	—	—	—
イトーヨーカドー新浦安店	平成23年9月30日	株式会社安井建築設計事務所	45,089千円/年
新橋駅前MTRビル	平成19年2月28日	株式会社竹中工務店	31,833千円/年
パークレーンプラザ	平成23年9月30日	株式会社安井建築設計事務所	15,103千円/年
ホテルオークラ神戸	平成23年9月30日	株式会社安井建築設計事務所	212,193千円/年

(注1)建物状況調査レポートに記載された修繕費用(緊急修繕費用、短期修繕費用及び長期修繕費用等を含みます。)の年平均額(もしくは記載された修繕費用合計額をもとに算出した年平均額)を記載しています。また、記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

(注2)銀座MTRビルは、区分所有建物であり、本投資法人の持分相当に対する修繕費用を記載しています。

(注3)大崎MTビルは、共有建物であり、本投資法人の持分相当(1,000,000分の838,899)に対する修繕費用を記載しています。

(注4)東京汐留ビルディングは、共有建物であり、本投資法人の持分相当(100分の50)に対する修繕費用を記載しています。

(注5)フレスポ稲毛については、借地権付土地(底地)を信託財産とする信託受益権であり、本投資法人は建物等を保有していないため、建物状況調査を実施していません。

(iii) 不動産等資産における資本的支出について

(イ) 資本的支出の予定

保有する不動産等資産について、現在計画または実施している改修工事等に伴い本投資法人が負担する資本的支出の主な予定は以下のとおりです。

なお、下記工事予定金額には、会計上の費用に区分経理される部分が含まれています。

名称 (所在)	目的	予定期間	工事予定金額(百万円)		
			総額	当期(第21期) 支払額	既支払総額 (当期含む)
銀座MTRビル (東京都中央区)	ファンコイルユニット 更新工事	自 平成24年5月 至 平成24年11月	39	—	—
三田MTビル (東京都港区)	セキュリティ工事	自 平成24年10月 至 平成24年11月	7	—	—
丸紅大阪本社ビル (大阪市中央区)	非常用照明・誘導灯 更新工事	自 平成25年1月 至 平成25年3月	18	—	—
丸紅大阪本社ビル (大阪市中央区)	喫煙室設置工事	自 平成24年8月 至 平成24年10月	13	—	—
丸紅大阪本社ビル (大阪市中央区)	貸会議室化工事	自 平成24年10月 至 平成24年10月	6	—	—
ONビル (東京都品川区)	防災設備更新工事	自 平成24年10月 至 平成25年3月	56	—	—
イトーヨーカドー 新浦安店 (千葉県浦安市)	排水主管更新工事	自 平成25年1月 至 平成25年2月	5	—	—
ホテルオークラ神戸 (神戸市中央区)	エレベーター改修工事	自 平成24年11月 至 平成25年3月	22	—	—
ホテルオークラ神戸 (神戸市中央区)	各所配管更新工事	自 平成24年11月 至 平成25年3月	14	—	—
ホテルオークラ神戸 (神戸市中央区)	チャペル空調設備更新工事	自 平成24年11月 至 平成25年3月	13	—	—
ホテルオークラ神戸 (神戸市中央区)	厨房冷凍機更新工事	自 平成24年11月 至 平成25年3月	10	—	—
ホテルオークラ神戸 (神戸市中央区)	エスカレーター改修工事	自 平成24年11月 至 平成25年3月	9	—	—
ホテルオークラ神戸 (神戸市中央区)	ファンコイルユニット 更新工事	自 平成24年11月 至 平成25年3月	8	—	—
ホテルオークラ神戸 (神戸市中央区)	電気室配電盤ブレーカ 更新工事	自 平成24年11月 至 平成25年3月	5	—	—

(ロ)期中の資本的支出

保有する不動産等資産について、第21期中に本投資法人が負担した資本的支出に該当する主な工事は以下のとおりです。

名称 (所在)	目的	実施期間	工事金額 (百万円)
丸紅大阪本社ビル (大阪市中央区)	各所積算電力計設置工事	自 平成24年7月 至 平成24年9月	42
丸紅大阪本社ビル (大阪市中央区)	B2階事務所化工事	自 平成24年4月 至 平成24年8月	20
丸紅大阪本社ビル (大阪市中央区)	セキュリティ工事	自 平成24年6月 至 平成24年9月	20
丸紅大阪本社ビル (大阪市中央区)	14階事務所化工事	自 平成24年7月 至 平成24年9月	7
新横浜TECHビル (横浜市港北区)	ハロン消火設備更新工事	自 平成23年10月 至 平成24年7月	7
ONビル (東京都品川区)	熱源自動制御機器更新工事	自 平成24年7月 至 平成24年9月	19
ONビル (東京都品川区)	階段通路誘導灯更新工事	自 平成24年4月 至 平成24年5月	5
イトーヨーカドー 新浦安店 (千葉県浦安市)	立体駐車場自動火災報知設備更新工事	自 平成24年8月 至 平成24年9月	10
ホテルオークラ神戸 (神戸市中央区)	エレベーター改修工事	自 平成24年5月 至 平成24年9月	16
ホテルオークラ神戸 (神戸市中央区)	階段通路灯更新工事	自 平成24年5月 至 平成24年9月	14
ホテルオークラ神戸 (神戸市中央区)	エスカレーター改修工事	自 平成24年5月 至 平成24年8月	8
ホテルオークラ神戸 (神戸市中央区)	各所配管更新工事	自 平成24年1月 至 平成24年4月	5
その他	機能更新等	自 平成24年4月 至 平成24年9月	50
合計			229

(ハ)長期修繕計画のために積み立てた金銭

本投資法人は、中長期的な資本的支出に備え、ポートフォリオ全体の減価償却費と修繕計画を考慮して、修繕積立金を以下のとおり積み立てています。

なお、フレスポ稲毛については、借地権付土地(底地)を信託財産とする信託受益権であり、本投資法人は建物等を保有していないため、修繕積立金の積み立てを行っていません。

計算期間	第17期	第18期	第19期	第20期	第21期
当期首積立金残高	2,000百万円	2,000百万円	2,000百万円	2,000百万円	2,000百万円
当期積立額	237百万円	181百万円	136百万円	226百万円	229百万円
当期積立金取崩額	237百万円	181百万円	136百万円	226百万円	229百万円
次期繰越額	2,000百万円	2,000百万円	2,000百万円	2,000百万円	2,000百万円

(3) その他投資資産の主要なもの

資産の種類	数量	取得価額(千円)		評価額(千円)	
		単価	金額	単価	金額
金銭債権(注)	1件	3,152	3,152	3,152	3,152
合計	—	—	3,152	—	3,152

(注)一般社団法人汐留シオサイト・タウンマネージメントに対する基金の返還請求権です。